明治三十五年十二月十五日發行（明治二十一年十月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百五拾七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百五十七號 目次

明治三十六年

一月例會報告

新年一月十一日(第二土曜日)午後正一時より麹町虎之門内東京女學館講堂に開く(晴雨共)左記之講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

當日は　總裁殿下の御臨場を可願出候

追而開會時間勵行●衣服御質素ノ事

餘興

明年は例年の福引を止め何か他の餘興をと役員協議中に候也

演題未定

演説者　ミス　スマート

通譯　鵜飼女史

私立大日本婦人衞生會

年末に際し會計帳簿整理の都合有之候間**會費御未納**の御方は勿論御前納切れの御方も此際至急本會事務所宛御送附有之度候也

明治三十五年十二月

大日本婦人衞生會々計係

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんとは皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ每月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衞生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則

（明治廿一年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を詳究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（亦付手納從末に評なり）入會後轉居等あるときは直に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其待遇は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受くることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族より報知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴るを記ゝ其中より總裁一名を奉じ皇族の姫殿下に奉戴するものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の評議に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は須要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會し急要の事項を評議するものとす

第十七條　每會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を聽聞せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は須要の事件あるときは總會に於て議定するものとす議定は總て多數決とし可否同數なるときは會長之を決するものとす

第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但監少　金額に限り入用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔當の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衞生會支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せざる條記載すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし其後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付するを要せず支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其郵稅は支會より本會へ送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し例會に於ける衞生上の講義演說談話等の筆記及內外の報道本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を添冊に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第廿二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割増)第廿三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局(牛込局宛)振出しあるべし第廿四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは勸告することあるべし第廿五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地六

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

- 總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下
- 會長　侯爵夫人　鍋島榮子
- 副會長　濱尾作子

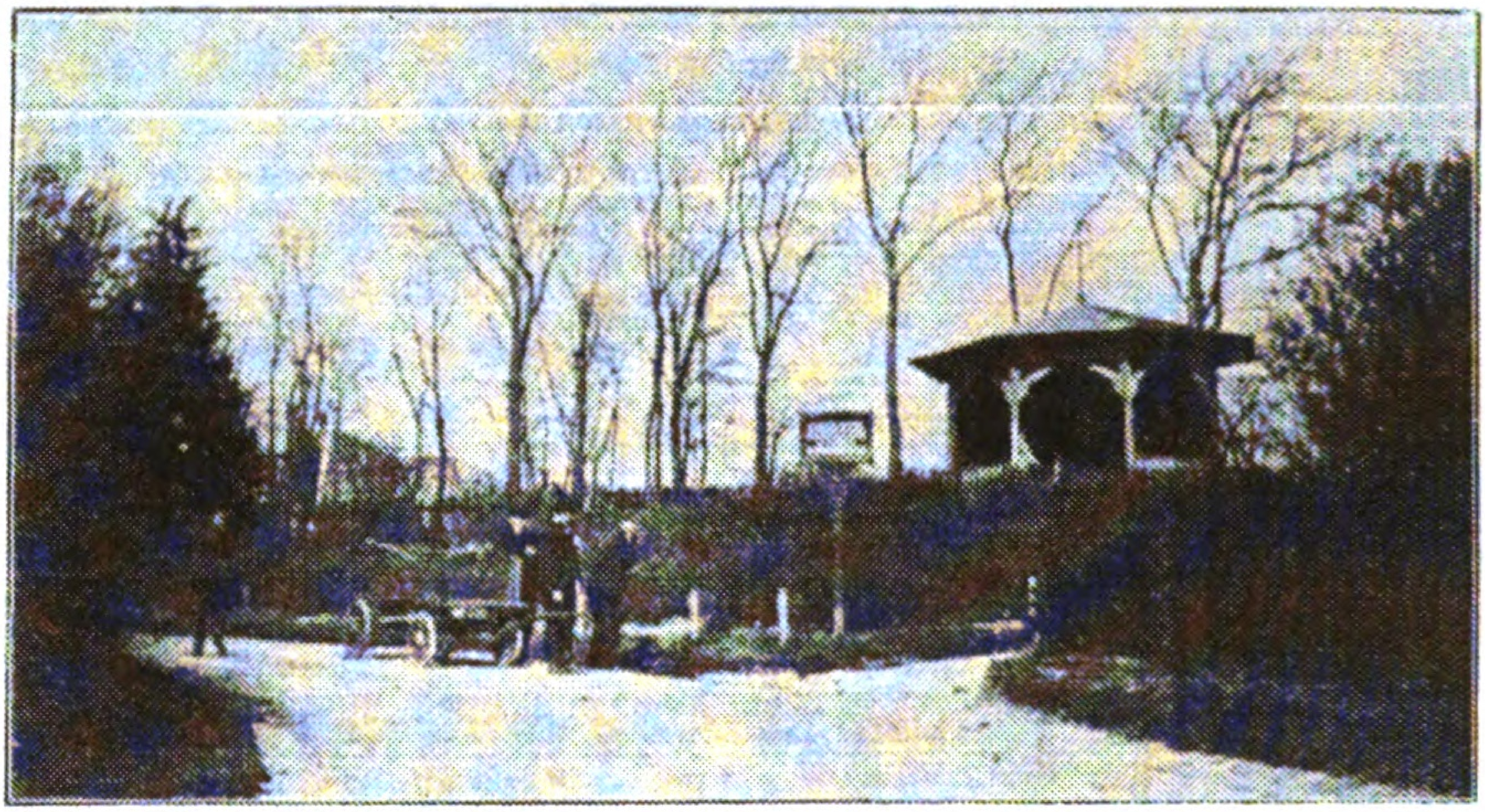
（いろは順）

- 幹事　鳩山春子
- 仝　羽田三緒子
- 仝　穗積歌子
- 仝　岡田德子
- 仝　高木かう子
- 仝　松平芳子
- 仝　三浦教子
- 評議員　石川さだ子
- 仝　濱田拾子
- 仝　仁禮壽賀子
- 仝　西升子
- 仝　男爵夫人　西部子
- 仝　德富靜子
- 仝　緒方悦子
- 仝　男爵夫人　川口直子
- 仝　男爵夫人　加藤鈴子
- 仝　吉武輝枝子
- 仝　子爵夫人　田中伊代子
- 仝　高松季子
- 仝　丹波貞子
- 仝　男爵夫人　南部限子
- 仝　中濱芳子
- 仝　岡山とし子
- 仝　山本多穗子
- 仝　子爵夫人　松前藤子
- 仝　子爵夫人　松井正子
- 仝　馬渡玉子
- 仝　伯爵夫人　松平充子
- 仝　子爵夫人　秋元宗子
- 仝　三宅藤子
- 仝　宮本樂子
- 仝　宮下咲子

の支會　千葉、新潟、山形、宇津宮、茨城、高崎

本會特別贊成員
（並に本會に於て講演せられし諸氏）

- 醫學博士　入澤達吉君
- 理學博士　飯島魁君
- ドクトル　伊澤信平君
- 地方視學官　色川圀士君
- 醫學士　伊東祐彥君
- ドクトル　飯盛挺造君
- 醫學博士　伊藤隼三君
- 理學博士　石川千代松君
- 赤十字[illegible]　岩井禎造君
- 新潟　池原康造君
- 同　池田浚君
- 前文部大臣　濱尾新君
- 醫學博士　濱田玄達君
- 法學博士　鳩山和夫君
- 東京　萩原綱四郎君
- 醫學博士　芳賀榮二郎君
- 衛生局長　長谷川泰君
- 新潟　長谷川一詮君
- 小兒科　小原頼之君
- 醫學士　林春雄君
- 醫學士　佐藤達次郎君
- 醫學博士　緒方正規君
- 步兵大佐　堀內文次郎君
- 醫學博士　土肥慶三君
- 醫學博士　岡田和一郎君
- 醫學博士　大澤謙二君
- 醫學士　大西秀治君
- 醫學博士　大澤岳太郎君
- 一等藥劑官　恩田重信君
- 醫學士　若杉喜三郎君
- 男爵　加藤弘之君
- ドクトル　加藤照麿君
- 醫學士　賀古鶴所君
- 醫學博士　河本重次郎君
- 醫學博士　故澤村[illegible]君
- 醫學博士　片山國嘉君
- 醫學士　川上稚量君
- ドクトル　金杉英五郎君
- 醫學士　笠原光興君
- 醫學博士　高橋順太郎君
- ドクトル　高山紀齋君
- 醫學博士　高木兼寛君
- 法學博士　高木豐三君
- 醫學士　田代義德君
- 新潟　田代亮助君
- 男爵　高崎正風君
- 醫學士　竹中成憲君
- 醫學士　高田耕安君
- 新潟[illegible]長　高橋辰五郎君
- 藥學博士　丹波敬三君
- 醫學士　高橋貞碩君
- 藥學博士　田原良純君
- 醫學博士　坪井次郎君
- 醫學士　久保猪之吉君
- 醫學士　米山彥郎君
- 三等軍醫正　星野葆光君
- 一等軍醫　横井忠國君
- 大日本教育會長　辻新次君
- 理學博士　坪井正五郎君
- 中央衛生會長　故長與專齋君
- 醫學博士　長與稱吉君
- 男爵　南部甕男君
- 理學博士藥學博士　長井長義君
- 新潟　長井千[illegible]君
- 醫學博士　中濱東一郎君
- 新潟　中村勇三郎君
- 醫學士　村松[illegible]三君
- 醫學博士　隈川宗雄君
- 醫學博士　栗本東明君
- 醫學士　山田鐵三君
- [illegible]　馬屋原彰君
- [illegible]　山根正次君
- 醫學士　山川春[illegible]君
- [illegible]　丸茂文良君
- [illegible]　丸山長四郎君
- 松山病院　松山棟菴君
- ドクトル　小柴信六郎君
- 盲啞學校長　小西信八君
- 廣島　小泉貢君
- 醫學士　古川榮君
- 東京　布施正顯君
- 前[illegible]長　後藤新平君
- 帝國大學教授　エ、ベルツ君
- 醫學士　甲野棐君
- 文部書記官　寺田勇吉君
- 子爵　秋元興朝君
- 前軍醫總監　足立寛君
- ドクトル　新井古芳君
- 新潟　阿部玄四郎君
- 高崎醫會長　土谷[illegible]次君
- 産科婦人科　水原漸君
- 醫學博士　佐々木政吉君
- 醫學士　淺田[illegible]君
- ドクトル　朝倉文三君
- ドクトル　朝山[illegible]六君
- 醫學博士　佐藤三吉君
- 醫學士　櫻井郁二郎君
- 醫學士　佐藤恒久君
- ドクトル　佐伯理一郎君
- ドクトル　[illegible]順次郎君
- 醫學士　神保[illegible]三郎君
- 醫學士　櫻井寛次郎君
- 醫學士　北村[illegible]造君
- ドクトル　北川乙二郎君
- 醫學士　木下正中君
- 醫學士　北島小太郎君
- 醫學博士　北里柴三郎君
- 醫學博士　三浦守治君
- 醫學博士　三浦謹之助君
- 小兒科專門　宮本仲君
- 理學博士　[illegible]作佳吉君
- 醫學博士　三島通良君
- 醫學博士　三宅秀君
- 醫學士　三輪信太郎君
- 新潟　水野欽君
- 伯爵　土方久元君
- 醫學士　島村俊一君
- 醫學博士　弘田長君
- ドクトル　須田卓爾君
- ミス、ヒユース
- 醫學士　笹川三男三君
- 醫學士　波多野惇君
- 醫學博士　奥秀三君
- 八王子　和田義賀君



ウィーン瘋狂院患者掃除ノ圖



東京府巣鴨病院患者草刈ノ圖

婦人衞生雜誌第百五十七號（明治三十五年十二月十五日發行）

講演

狐つきの話（編輯員題號を附す）

醫學博士　吳　秀　三
佃速記事務所員速記

今日は名譽ありまする婦人衞生會から御招待に預りまして、何か貴婦人方へ申上げて吳れと云ふ幹事様からの御依頼で、自分の專門の事を少しく御話致さうと云ふ積りでございますが、甚だ吶辯で申上げることに慣れて居りませぬて、御聽苦しいでありませうと思ひますけれども、暫時御話をして居ります中には眞打の方が見えますから、其方を御樂にして、私のはちよつと御耳を拜借するだけのことでございます。

それで別に面白い御話を致すことも出來ませぬて、狐つきと云ふものはどう云ふ譯で起るものであるかと云ふことを御話致さうと思ひます。

狐つきと云ふのは日本に澤山ある病氣でございまして、皆様方、また御若い方でございましても今迄度々御聞になり、或は自分で御覽になつた方もあるであらうと思ひまするが、此狐つきと云ふのは西洋などにはございませぬて、なにか支那日本などにある特別の病氣のやうに思はれますけれども、是は別段に西洋にない病氣と云ふものでなくして西洋にも同じやうな病氣がありますけれども、日本とは其病氣の現はれ方が違つて吾々に見えるだけであつて、病氣の本色と云ふものは同じものであるのです、それて日本の狐つきと似たやうなものは西洋にもあります、狼がつくとか犬がつくとか、又日本の魔がつくなんと云ふのと似寄つたもので、矢張西洋にも馬或は鬼がつくと云ふやうな事がある、又日本にも蛇がつくと云ふ事がありますが、さう云ふ風な考が埃及あたりにもあるので、詰り所に依つて名が違ひ又

病氣の工合が違ふのでありますけれども、病氣は同じ病氣が、一方は狐で一方は狼であると云ふ丈で其病には違ふ所はないのでありまして、丁度日本でも地方に依つては、或は犬神がつくとか、或は狐がつくとか、狐にもおさき狐とか、何狐とか云ふ種類がある、四國の方では猿がつく、或は狸がつくと云ふことを申します、又中國では蛇がつくの人狐がつくのと、日本でも所に依つて名が違ひますが、日本でも西洋でも病氣は皆な同じであります。

狐つきと云ふことに付ては日本にも昔からいろ〳〵な書物に書いてあつて、歴史にも出て居りますし又小説のやうなものにも書てある、又隨筆にもある、書にさう云ふ風なものばかりでなく昔の儒者と云ふやうな人がさう云ふ狐の事を引用して居り。殊に醫書等にもそんな事があるやうに書いてあります、それて俗間では狐と云ふものは靈妙不思議な動物であつて、魔力を及ぼして人の身体につく、或は人にのりうつッて仕舞ふ、斯う云ふ風に考へたのでありますからして、狐つきと云ふものは皆な病氣でないやうに考へて居りました。然し是は今日先づ醫者の方から考へて見ると、狂氣の一の種類であるやうに思はれる、又必しもさう云ふ譯でなくして、狂氣ばかりでない色々な物が其中に這入つて居りまして、精神か間違つて居ると云ふのでないのがあります、俗間では身体の病氣をつかまへて狐がついて居ると考へても居るのを見ました、昔の癪と云ふやうな、胸が痛いとか、腹か痛いとか云ふ病氣があると、それを狐がついたものと考へて、それを拂はなければならぬ、退けなければならぬと云ふ風に考へて居る場合も澤山あるので、其病人は左程精神は狂つて居らないですが、其土地の人々が多くはさう云ふ風に信ずる位でありますから、病人もそれを信じ阿父さんや阿母さんも狐つきと思つて取扱ふから子供も矢張さうであらうと信ずるに違ひない、さう云ふ風に信ずると、胸が痛い腹が痛いと云ふと其中に狐が這入つて居つて仇をすると云ふやうに考へられる、さ

う云ふ風に精神が間違つて居るのでなくして迷信、（迷信と云ふのは世の中に幾らもあること、例へば何を食べれば何の病氣が治るとか、門の所へ何の札を貼つて置くと泥棒が來ない、又は火事がない、そんな事がある譯はないけれども皆なさう云ふ風に思つて居る、それを迷信と云ふ、實際の事を分らずして只さう云ふ事があるもんだと間違つた事は一時に信仰して居るのです、さう云ふ迷信）の爲に狐つきと看做れて居る者かありますし、又さうでなくても神經病の中に癪と云ふのがありますが。新しい言葉てヒステリーと言ひまして狐つきに一番關係がある病でヒステリーが狐つきと見誤られて居る場合が澤山ありますが一体狐つきは非常にうつる、隣りの娘が狐つきになると、一軒おいた隣りのおかみさんが狐つきになる、一つ村がまるで狐つきになると云ふやうに非常に擴かるものである、所が精神病、狂氣の方はそんなに澤山傳染するものでない、移り擴がるにしても大抵二人位で。一人病氣になるとまた一人病氣になると云ふやうな事はある、三番目の人にまで移るのはもはや少し異例である位でありまして其村が悉く狂人になると云ふやうなことはないのであります、又精神病が傳染するのは多くは兄弟より兄弟に傳染するのであります、先づ兄さんの氣が狂ふと、それに續いて妹が氣が狂ふ、それに續いて弟が氣が狂ふと云ふやうな風に、同じ家に生れ、同じ所に住んで、同じ敎育を受けて、同じ飯を食つて、同じ着物を着て居る、同じ性質である、さう云ふ總ての事柄、生活の仕方が同じであつたものに起る、或はさうでなくて夫婦のやうな、兩方の性質が似て居る、喜も憂も共にして居ると云ふ、夫婦共同じやうな關係に居るものでありますと、亭主が病氣になればおかみさんが續いて病氣になる、或はおかみさんが病氣になつて亭主が續いて病氣になるやうな事がある、或はそれと同じやうに親子、阿父さんが病氣になつてそれから其子に病氣が移ることもあります、其移り方といふものゝ多くは上の方から病氣

がうつる、例へば亭主からおかみさん、姉さんから妹、兄から弟、又君臣の關係でありますと旦那の方から家來にうつゝと云ふ風に上の方から低い方へうつる、精神病のうつる場合には種々なむつかしい事柄があつて、決して此家に精神病者があつて、隣の人も同じ病氣になると云ふやうなことはない、昔から學者が研究して書いた本は澤山ありますけれども精神病が數十人にうつると云ふやうな事は例がなくて、先づ四人にうつるといふのも極く少ないのであります。それですから狐憑などか一時に澤山に出來たり何かするのは精神病でないからであらうと思はれますそれでヒステリーと云ふ病氣がどうして狐つきの原因になるかと云ふと、此病に罹りますと此人は大變當り前の時とは違つた性質の人になつて來る、通常の人とどう云ふ所が違つて來るかと云ふと、人情の現はれ方が違つて來て大變情にもろくなる、さうして物事に對して感が非常に鋭敏になつて來ますから其情が何時でも同じでない、今日は非常に樂しいと思ふ事も明日は樂しくない、今日は愉快に思ふ事でも明日は不快になる、是が通常はさうでないが此病氣に罹りますと非常に情にもろくなつて詰り喜んだり悲んだり、怒つたり樂しんだりいろ／＼に情が移り易い、斯う云ふのが此病氣の重なる徴候であります、さう云ふ風な所からして種々な事柄に非常に注意が深くなつて來る、例へば人が自分に對して斯う云ふ事をするが、どう云ふ譯でこんな事をするのか、またあの人が斯う言つたからあゝであらうとか總ての事柄に注意するやうになつて、何か事があれば直ぐに自分が其事柄を善いとか惡いとか、どうであるとか言つて支配しなければならぬやうになつて來る、さう云ふ譯でありますから、或は側の人が自分に氣をつけて呉れるとか、世話を燒いて呉れるとか云ふと、何でも其人でなくちやならぬやうに悅んで居りますけれども、それがさうでないと何か自分を側の人から輕蔑され、侮辱でもされたやうに感ずる、さう云ふ風な譯でありますから、非常に我

儘な病氣で、自分の思ふ通りにならないと大變に機嫌を損ねるのでありますので非常に愛憎が變り易くて、氣に合ふやうにすれば其人は非常に善い人になつて、氣に合はぬとちよつとした事でも其人は大變な惡人のやうに思はれる、又非常に憐みッぽくなつて人が惡い衣服でも着て居るのを見て不相應な金をやると云ふやうに道德上にしても見方が違つて來る斯う云ふのを學問上では、道德上の「よい〳〵」と申します、よい〳〵と云ふのは足の運びの出來ない、調子のとれないのでありますが、此病氣に罹ると無暗に一方にのみ偏つて道德上の調子がとれない、それて道德上の調子のとれないからかく名つけて居ります。

さう云ふやうにヒステリーの人は物事が極端に走るやうになつて、仕事をするにも或時は非常に熱心にやつて居る、さうかと思ふと一時間も經つか經たないのにもう手を着けるのも厭だ、見るのも厭だと云ふやうになる、それが激しくなると想像力が強いのと一所になつて、一つ事があると其事をいろ〳〵に想像する、又昨日した事も眼の前に分るやうに心に浮んで來るやうになる、何か考へることもありありと目に見えるやうになるそれに依つては又記憶が間違つて來る、自分があの人に會つた時にどう云ふ事があつたと云ふことを考へる時に、想像がそれに加つて、實際の事より自分の想像の方が勝つて來て、チャンと元の通りに覺えて居られないで、何か人と少し行違があッても何か大變な失禮な事を其人が自分に對して言つたとか爲たとか云ふやうに想像して了ふ、段々激しくなつて來ると現にいろ〳〵な物が見えるとか、聲が聞えると云ふやうになつて來る、さう云ふ風に段々ひどくなつて來るもので、それから狐つきにも似て來るのであります。

其外にヒステリーの發作と云ふものは、是にはいろ〳〵な時期がありますが痙攣が起つて來る、癪でもつて身躰が「つる」と云ふことが時々起つて來る、此「つる」と云ふことが發作の一番重なるものでありま

すが、いろ〳〵な發作が起つて來ることがある、例へば發作の前には非常に平常より感じが強くなつて來まして或は非常に鬧いで見たり、或は目の前に何かなき物が見え又仄になき聲が聞えたりするやうになつて來る、或は又大變に不安になつて、穩かに坐つて居ることも出來ずに、其處らをグル〳〵廻つて歩いたり、立つたり居たり落附かないやうになつて來たり、或は呼吸が十分にうまくいかないで苦しいと云ふことになりましたりする、それに次ぎまして本當の發作が起つて來る、本當の發作と云ふのは、眩暈がする、耳鳴がする、或は夢のやうに寢て居るんではないけれども眠つて居るやうな有樣になつたり、それに續いて手足がつッて棒のやうになる、其時が濟みますと妙な身躰の風をする、或は非常にむづかしい、當り前の人には出來ないやうな身躰の振方をする、例へば頭を足の踵にひッつけて、まん中をずつと橋なりにして立つたり、身躰をいろ〳〵な妙な位置にする、それが濟んで今度はもつとひどくなると、色々な物が見えたり、なき聲が聞えたり、夢のやうに追剝でも來たやうに思ひ鬼でも來たやうに思ふたり、又病氣の起らない時に不平であつたやうな事があると此病氣が起つた場合に其時にした通りの事を繰返して、或はあやまつて居るやうな位置をしたり、泥棒にでもつかまつて居るやうな位置をして見たり、自分が非常に感動した事を其處でもつて芝居をするやうな工合にやるやうになる、さうしてそれが濟むと段々元の通りの心にかへつて來て眼がさめる、それで其間の事をまるで知らないものもありますが、どんな事をしたと云ふ大體は知つて居るが多いてす。

前に述べましたやうに其發作が幾つもありますが、それだけをいつも病人が繰返すと云ふのではない、其發作が重い時も輕い時もある、輕い時には一つか二つやつて濟むけれども重い時には皆なやる、斯う云ふ風な事が今の狐つきと云ふものに大變關係があつて是から出て來るのてあります。

例へばヒステリーの人が今のやうな妙な位置をして見たり、いろ／＼な事をすると、他の人が是は癪が原因だと云ふことを知つて居れば宜いだらうが、知らぬと云ふと是は魔がついた、狐がついたのであらうと云ふやうに思ふに違ひない、又病人も妙に肉がつれたりすると此中に狐が居るとか、或は癪の爲めにシコリでも出來ると是は狐がしたものではないかと云ふやうに思ふ、斯う云ふ、ヒステリーの人にはいろ／＼な徴候があつて、例へば半身がまるで利かなくなつて了ふ、それも床の中に寢て居る時には身躰が動くけれども、床から疊の上へ出ると動けない、又は筋肉がつッて何處を抑して見ても覺えがない、覺えがないから病人の身躰ではない狐がついて居るのだと云ふやうに病人も思へば側の人も思ふ、又或時には斯う云ふ風な感じもある、何か身躰がずつと無くなつて往くやうな感じがする、だから或は何處かへ天狗にでも攫はれて往くやうに考へたり、狐に何處かへ持つて往かれたと云ふ考へが病人に起つて來る、總て狐つきの症狀と、癪持の症狀とが符合するのであります。

それから此狐つき——癪持の病人には妙な性質がある、其性質と云ふのは餘程言ひにくいですが「推服」とか「心服」とか云ひて云ひてしやう、まア病人の方から言ふと外の人に對して心服する、或人を難有いと思ふと難有くて堪らないと云ふ風に所謂信用の力、信用して如何にも感心すると云ふ性質がある、又他の方から言ふと其病人に對して、自分の道徳上、或は智慧の力に依つて其人に心服させることが出來る、癪持の人が或事柄に付いて善いと思ふと非常にそれが宜いやうになり、惡いと思ふとそれが非常に惡いやうになる、であるから醫者ならば其病人に心服させることが出來ると云ふ一種の性質が此樣な病人にある、是は强ち癪持ばかりでない世の中が大抵さうであるが癪持は殊に甚しい、だからして其御馳走は旨いと思ふて食ふと非常に旨い、又旨さうなものでないと思ふと旨くない、例へば外の肉でも馬の

肉であるとか、猫の肉だと言つて食はせると、わたまから厭になつて所謂食べず嫌ひですナ、始め厭だと思ふたものはまづいものでなくも自分の信仰からまづくなる、醫者であつてもさうです、能く親切にして行屆いた人で、其病人が斯う云ふ人に頼んだら乾度病氣が治るだらうと思ふと藥が利く、又えらさうもない人だと思ふと其藥を飲んでも利かないやうな心持がする、又吾々にしても政治家として伊藤總理大臣と云ふ人が演壇に出ると云ふと傍聽者がえらひ難有いと思ふから少々間違つた――そんな事はないけれども少しは違つた事を言ふにしても、成程と聽いて居つて反對論を唱へる者もない、又平生信じて居ない人であると實際な事であつてもそれ程難有く思はれない、さう云ふ風な信仰力と云ふものが大變に今の病人、狐つきと云ふものに關係があります。

例へば昔から狐は不思議な働きをすると思ふて居り、稻荷様などに崇め居つて、有難いと云ふことが非常に腦髓に染み込んで居る、又此狐が人の身躰につくとか、或は此狐の意に逆ふと自分の畑に立派に出來て居つた所の豆とか米とか云ふものが皆ないけなくなつて了ふ、さう云ふ風な事柄が信仰を以て固まつて昔から歴史なり其他の書物なりに書いてあるし、世の中が皆なさうであると思つて居た事柄であるからさう云ふ事が自然に精神に這入つて居る、又さう云ふ病氣の時に斯う云ふ事をしたら狐がつきはしないかと云ふことを想像する、詰り信仰と云ふものが知らず識らずの中に心に這入つて居るから、狐がつくとかどうするとか云ふやうな事が起つて來るのであります。

中には又癪持になつて、癪の發作の中に自分の病氣は外から何か這入つて居ると云ふやうな感じがあると、平生の信仰から是は狐であると云ふやうに考へ出す病人もある、又さう云ふ風な病氣が起り易い所へ持つて來て、それを利用して惡い事をする人がある、或は種々な咒ひをしたり、祈禱をしたり、又は

神子などを作つて、其神子にいろ〳〵な事を聽いて見ると云ふやうな事を田舍などへ往くとする、さう云ふ事をして人を迷はす人がありますから尙更起り易い、此神子に神がのりうつッて變な事を言ひ出すと云ふやうな事は推服と云ふ力て出來る。

それて醫者の方て病人を心服させると云ふのはどう云ふ風にするかと云ふと、一番容易い極く明かな例が催眠術と云ふので、病人に光るものを見せたりなどして顏を見合せる、兩方て眼ッこをして居ると、其癪持、ヒステリーに罹つて居る人がズーッと寢たやうに工合になつて了ふ、さうして其間に種々な事を聽くことが出來る、それからしていろ〳〵な事を命ずることも出來る、其寢たやうな工合になつた時に、私の言ふ事を確かに聽きなさい、お前がさう考へて居る事は間違つて居るから氣をつけなければならぬ、今から何分經つとお前の眼が覺めて苦しいのが治る、それから何分經つとお前はどう云ふ事をする、例へば何處へ往つて何の本を讀むと云ふやうな事を言つて置くと、全く醫者の言ふ事を信じて吩附通りするやうになる、又さう云ふやうな時にいろいろな事を聽いて見ると、自分が平生持つて居る迷信です、間違つた考を繰返して言ふのです、そこで此方がお前は何處の狐だとか云ふ問を起すと、俺は何處の狐だとか狸だとか言つて答る、恰度夢を見て居るやうな狀態の事をつかまへて種々な問を起すのでありますか、それに應じていろ〳〵な答をする、詰り斯う云ふ病氣の起ると云ふものは、神主などが神子などを拵えて種々な事をやつて愚民を惑はすので、斯う云ふ病氣が掀かるのを助けるやうな譯なのてあります。

さう云ふやうな工合で、病人が考へて居るやうな問題を出すと返答する、さうすると之を狐がついたものであると認めるのでありますが、是は多く癪持に起るものであつて、さう云ふ昔からの迷信、殆ど日本の建國以來ある所の迷信が凝り固つて狐がつくとか、犬がつくとか云ふやうな事になつたのでありま

すが此頃は此の如き病は段々無くなつて來たのであります、是は衞生とは關係がないやうな事でありますけれども、全然關係が無いと云ふのではない、詰り此處に御出になる貴婦人の方々が我同胞を御憐みになつて、種々な方法を以て愚民共の迷を醒すやうにせられましたならば、日本の各地方に在る所の、一部は癩持、一部は氣違てある所の病人が少くとも狐がつくと云ふやうな考がなくなつて來る、決して貴下方の病氣を治すと云ふのではありませぬが、世の中の多數の人の迷信を去つて斯う云ふ病氣はないやうにしてやらうと云ふことは大變衞生にも關係がありますから、御會ひになつた方に一人でも二人でも御話になつたら間違つた考を持てお出る人が少なくなるであらうと思ひます、故に斯う云ふ智識を田舍の愚民共の間に波及するやうに致しましたならば其效績は大なるものであらうと思ひます、是は私か偏に諸君に御願申す事なのであります。

化粧の話

醫學士　笹川三男三
佃速記事務所員速記

此間本會から私に何か御話をせよと云ふ御依頼でございまして、一躰私は此皮膚病を自分の專門として居りまして、從つて皆樣に御話することは澤山ございます故、此事に就て今日少し皆樣に御話致しますて、此皮膚の變化と云ふものは色々あり、ツマリ此病氣になつても皮膚に一種の變化を起すことがある、デ今日茲に私が御話致したいと思ひまするのは、所謂此化粧のことでございます、一躰此醫師と云ふものは何も病氣を療すのみが醫師ではない、ツマリ其身躰に於て色々の變化の起るのを未發に防ぐのが矢張り醫師の本務でありますからして、此色々と皮膚に於て變りの起るのを未發に防ぐのが、矢張り吾々の本務であると思ひます。

デ皆樣が始終なさいます化粧と云ふものは、何も紅

白粉を付けて粧ふのが化粧てはなからうと思ふ、所謂此「コスメチック」と云ふものてあります、「コスメチック」と云ふものはどう云ふものてあるかと云ふと、即ち天然に皆様にチャンと一の美と云ふものを稟けて御出になる、其天然に稟けてある美を保存して、其美をなるべく損はないやうになさるのが、即ち此化粧てあらうと思ふ、即ち自分の美を護つて行くのてあらうと思ふ、是が即ち化粧と云ふことの本になつて行くのてあらう、併し化粧と云ふことは既に自然に稟けて居る所の美に多少缺點がある、ツマリ不足があるから其不足を補ふのが化粧てある、デ一番何が美しいかと云へば自然に稟けて居る所の美程美しいものはない、其美を何處までも能く保存し損はぬやうにするのが極く必要のことてあらうと思ふ、デ此美、美と云ふことはどう云ふものてあるかと云ふと、是はなか〱此處でちよつとお話の出來るものてはない、なか〱むづかしいものてあつて、哲學上から見ても亦醫師の方から言ふて見ても、總て人の觀念に起る所の美と云ふことに付てはなか〱ちよつとお話の出來るものてはありませぬ、デ此美と云ふものは誰も無論羨む所である、誰が見ても之は奇麗てあると云ふ考が起る、自然に人が好く所てある、勿論其美と云ふことの奇麗てあると云ふことは何國の人が見ても同じことて、東西南北即ち歐羅巴にても日本にても支那、亞米利加、何國の人でも、人種に依つて美と云ふ觀念は色々變りはあるけれども、無論美と云ふことは好む、即ち人種に依つて自然に膚の色も違ふし、又言語も違へば生活の工合も矢張り違ひがある、總ての點の違ひがありますから、從つて其美しいと云ふことを感ずる度合も亦色々に違ひがなくてはならぬ、それ故に吾々が誠に美しい奇麗てあると思ふものも、亦歐羅巴の人から見れば誠にそれが醜く見へる事もある、亦向ふて奇麗てあると言ひ奇麗に見えることも、吾々の目に醜く見えることもある、是は皆人種の違ひから來るものてありますからして、美の觀念と云ふも

のは種々に違ひます、只此處で私がお話する美と云ふものは成たけ自然の美と云ふ、所謂醫師の方の點からしての美で、所謂醫學的天然の美をお話する、自然に稟けて來た醫學的の美と云ふだけで、精神的の美或は感情的の美と云ふやうなむづかしいことではない、デ此美と云ふものに風俗から起つて來る即ち自然に稟けて居る所の美が、多少缺げて居る塲合に於て、此化粧とか何とか色々人工的に其美を補ふて行かなければならぬからして、それで此化粧と云ふことをするやうになるのであらうと思ふ、デ此化粧と云ふことに付ては、古代からして歐羅巴諸國にても、亦日本にても支那にても何國にも古くから色々の法を以て、化粧と云ふことをして居る、所謂人工的に美を補ふて行くことはやつて居る、それで古き歐羅巴地方のことに依つて見れば、希臘時代の盛んな時分或は羅馬時代の盛の時分、美と云ふことに付ての色々化粧の方法が歷史上にも書物等にも載つてありますが、隨分變つたことをやつて居る、又極く開けない國に參りますれば隨分色々な化粧法がおる、所謂天然的でない人工的の極く甚だしい化粧をやつて居る處がある、例へば文身などをして見たり色々するやうな、極く甚だしい化粧法をやつて居る所がある、併ながら之も前にお話する通り、其國の人種の違ひからして、吾々が見て誠に醜いものも他の人達から見れば、大變に好い化粧のやうに思ふのであらう、さう云ふ工合に素と化粧と云ふものは所謂自然の美に反した事をして居るのでありますからして、どうしても身體の健康上にも惡るし、又吾々が考ふる點から思ふと餘り見好いことでない、即ち不自然的の化粧法と云ふものは餘り面白くないやうに思はれる、それ故段々歐羅巴諸國にては開けて來るに從つて極く不自然的の化粧法と云ふものは追々癈れて、どうも斯う云ふ事は健康に宜くないと云ふので、斯う云ふことは段々廢して自然に適つた化粧法が追々出て來た、けれどもまだ今日の處日本などには――勿論歐羅巴諸國にも未だ所謂不自然的の化

粧法が隨分殘して居る事もございます、例へば歐羅巴諸國て言つて見ても、ツマリ形容を直す爲に「コーセツト」のやうなものを縮て見たり、又日本などて言つて見れば今だにまだ眉毛を落して見たり、或は鐵漿を付て見たりする、是等は全く化粧法の自然に逆つたことてありますからして、さう云ふことを見馴れない人の眼から見ると誠に醜く見えることてあらうと思ふ、若し然れが自然に適つた事てあれば決して醜いものてはない、さう云ふ工合に自然的に適つて居らぬ化粧法が殘つて居りますが、併し追々にさう云ふ事もなくなつて、さうして總ての化粧法が自然に適つた事をするやうに、今日の所進みつゝあるのてあります、デ例へば此白粉を付けると言つても、今日の所ては只白き粉を塗つて置くとそれてもう化粧をしたと云ふことになつて居るが、それてはまだ全く自然に反した事てあらうと思ふ、自然の皮膚の色と云ふものは、決して眞白いものてはないと云ふことは誰しも知つて居るのに、只白い粉を塗つて置くと云ふのは自然に逆つた化粧法てあらうと思ふ、然るに近來日本などには往々見えますが、西洋などては多く白粉の中に多少「カルミン」のやうなものを混じて用ひて居る、即ち本當の肉色にして塗るから初めて多少自然に適つた色を皮膚に出すやうになるだらう、デ此白粉などは未だ日本に於ては今お話した通り白い物、即ち亞鉛とか鉛の混合物から出來て居る物を、皮膚に塗るに止て居る、西洋などては其邊を隨分能く考へ、成るたけ自然に逆はぬやうに化粧をすることを考へて居るから、白粉と云つても啻に白いものはかりてはない、矢張り白いのもあるし、赤いのもありそれから又黄味がゝつた物もある、又は青味がゝつた所の色を持つて居るものもある、斯う云ふ工合て色々の粉、「ハスター」と申しまして煉白粉になつた物など色々ある、是はどう云ふやうにするかと云ふと、ツマリ是が化粧をするに付て、其化粧が成たけ自然の美と云ふことに背かずして、化粧の出來るやうにと云ふて色々なものを使ふ

やうになつた、之も亦場合に依ると自分が其の所謂美と云ふことに十分注意して、黄色を混れるにしても場合に依ると色々外部の障害、即ち日光 或は光線等に依つて、自分が極く奇麗な顏色であるのに、其光線の爲に人の目に非常に變つたいやな色に見えることがある、斯う云ふことは歐羅巴の人は隨分能く考へて化粧をして居るのです、例へて見ますれば或一つの夜會がある、其夜會の場所にはどう云ふ光線があるか、例へば電氣燈が點いて居るとか、或は白熱燈が點いて居るとか、又は瓦斯であるとか云ふことまでも、能く詮索して化粧をしたもので隨分念を入れたものであつた、若し其時に普通の瓦斯の光のある所へ行けば、即ち其瓦斯が黄味を帶びて居る光線を出すから、それに從つて化粧をしねばなりませぬ、又白熱燈、即ち青い光のさす瓦斯或は電氣のある所では、總ての物が青く見えるからそれに應じた化粧をする、若も白熱燈の青い燈のある所へ以て行つて、白い白粉を塗つて行つたなれば、縱令自分の顏色が薔薇色を持つて居る——肉色を持つて居るにも拘はらず、其の顏色が青くなつてしまつて非常に醜くなる、即ち自分が折角天然に稟けて居る所の美を、白い白粉をつけて光線の爲に自然の美を損ねられることがあるから、さう云ふ場合には多少黄味がゝつた所の白粉をつけるとか、或は少しく薔薇色を持つて居る所の白粉をつけるやうにして化粧をする、即ちなるたけ天然の美に逆はぬやうな色にすると云ふことを勉めて居る、それでこそ初めて化粧と云ふことが十分に出來るのであらうと思ふ、全くさう云ふやうな化粧が、所謂化粧中の粹な化粧法であらうと思ふです、デツマリさう云ふ工合に人が割合に自分が自然に稟けて來た所の美と云ふものに逆はないやうに、成るたけ自然の美と云ふものに似寄つたやうに造り上げやうとするのは、即ち自然の美と云ふもの程いゝものはないと云ふ所の觀念を持て居るからであらう、自然に稟けて來た小見の顏色の如く肉色——桃色なる顏の色は全く何より是程奇麗な

化粧の仕樣はなからうと思ふ、さう云ふやうな顏の色に化粧をするのは、天然の美程い〻ものはないと云ふ考があればこそ人が化粧をするのであらうと思ふ、それにはどう云ふやうにしたら宜いか、即ち此「コスメチック」自分が天然に稟けて來た所の美を保存することが、極く必要になつて來る、併しそれは只一朝一夕に於て此自然の美と云ふものを、保存することが出來るものではない、是が即ち平生の嗜てあるのであらうと思ふ、平生十分に注意して居らんければ、決して自然の美を十分に保つて行くことは出來ない、自然の美を十分に注意して保存してさへ行けば、强ち化粧をせんでも奇麗で居られることだらうと思ふ、デありますからして、ツマリ化粧と云ふもの〻本は何であるかと云へば、即ち自然の美と云ふものを保存して行くことが、極く本になつて行くことである、此自然の美を保存して行くと云ふことは、どう云ふことであるかと云ふと、平生白粉が其皮膚なら皮膚、毛なら毛、或は形なら形、總てそれらの點に付て十分に注意して行くのが、大事なことであらうと思ふ、例へてそれを一寸お話して見ると、是から先昔樣に能くあることであるが、手や足に皹が切れる、皹がきれたからと云つて、それなり餘り構はずに棄て〻置けば、イザ人の中に出やうとなすつた時、之を癒して出やうと云ふても、直ぐに癒る譯のものではないのです、それを平生からどう云ふやうにしたなれば、皹がきれないやうに注意が出來るかと云ふの御心掛があつて、始めて十分な化粧が出來る、即ちそれが一の「コスメチック」自然の美を能く保存して行く、皹などがきれるのは斯う云ふやうにすれば、防ぐことが出來ると云ふて、十分それに付て注意をする、是れ「コスメチック」即ち自然の美の保存であらうと思ふ。

デ今御話したやうな工合にして、自然の美を保存して行くと云ふことは、是は平生御注意になるべき事てあるが、是は又吾々醫師の方に於てもそれだけの注意を是非しなければならぬ、故に矢張り此「コス

メチック」即ち自然の美と云ふものを、保存して行くことに就ては、矢張り醫學の一部分として論ずることが出來るやうになつて居る、殊に吾々の皮膚病科の方に於ては其科目としてある位のものであります、尙其他のもの外科の方にも或は鼻耳科、或は眼科とか、總て此外部に出て居る所の科目に於ては、多少此「コスメチック」即ち自然の美を保存することをやらねばならぬやうになつて居る、けれども皮膚病科の方が一番多くの關係を持つて居る、と云ふのは皮膚の一部即ち、毛とか云ふやうなもの丶保存をするに付て多くの關係を持つて居ります、さう云工合で吾々が十分此醫學の方で、御注意をせんければならぬが、今日の所では未だなか／＼十分に御注意をするまで、世間が届いて居らない、例へば此賣藥などで、色々な化粧に御使になる品等を賣藥舖に賣くのは實に間違つた話て、あれらに付ては吾々が種々干涉して行かんければならぬのである、けれども多くは賣藥舖の手になつてあるからして、從つて場合に依ると隨分害のある物などを、知らず識らず御使になることが隨分ある、白粉などが其例であつて、白粉も極く僅か御使になるのなれば左程害はないが、それは多くの鉛から成立つて居るから、所謂鉛毒と云ふもの丶憂が大變にある、隨分此節鉛を混ぬと云ふ所の白粉などが澤山出來て、廣告などには大抵鉛がないと云つてあるが、其實多少の鉛が皆這入つて居る、どうも白粉と云ふものは鉛が少しづ丶這入らぬと——酸化鉛と云ふものが這入らぬと膚に着きが惡いものでありますから、極く鉛の無いと云ふ白粉でも、調べて見ると往々這入つて居ることがある、さう云ふ工合に毒になることを知りつ丶御使になることがある、其他の賣藥、例へば毛の生える藥だとかマア色々な物がありますが、それらも無論賣藥屋の手にて出來て居るものであるから、中には効のある物もあらうが、亦場合に依るとひどい藥を用ふることがあつて、それが爲に非常の害にもなる、例へば黒子が出來て其黒子を取る藥であるとか、ソ

バカスを取る藥、疣を取る藥など〻云ふものがあるが、さう云ふものを使つて却つてそれが爲に非常に其處へ痕を殘すなど〻云ふことは、吾々が能く目擊する所であります、さう云ふことは一體此賣藥屋に許す譯のものでないのでありますが、さう云ふことが時々あつて隨分それが爲に化粧上非常な害を來たすことが往々あります……チヨツと御話が脇へ這入りましたが、今お話した所の自然の美と云ふものを保つのは、强ち此顏頭とか云ふ所にのみ止まるものでなくして、所謂「コスメチック」自然の美を保存して行くことに付ては、身體の形、皮膚、それから毛爪それから口中其他鼻、耳、目等に皆此「コスメチック」と云ふもの〻あるのであります、之を完全に保つには無論十分に平生からの心掛けと云ふものが肝要である、決して一時にそれを能く保存して御在にならうと云ふても出來ないことは、前御話した通りである、然らばどう云ふ點に付て之を注意して行かんければならぬかと云ふに、十分になさると云ふことは難しいことであつて、第一食物、即ち滋養物の取り方で啻に滋養物をさへ食べれば宜いと云ふのではない、是もすつかり御話することは出來ませぬが、先づ食物に關係がある、それからして消化器、即ち腸胃の工合に大變關係がある、それからして呼吸器、即ち肺の工合、肺にどの位新鮮なる空氣を吸はなければならぬかと、いろ〳〵それに付ても話がございます、それからして衣食住、先づ着物です着物も矢張り形容、皮膚に關係がある、住居も無論關係がある、それからして皮膚の淸潔法、皮膚はどう云ふ風にして保存して行く、それからして起居動作運動の工合とか、色々さう云ふことに付て矢張り關係があつて、それらの工合を能く調査して御在になれば、無論此自然の美と云ふものを、十分に保存することも出來るだらうと思ふ、デ是は又今後機があつたなれば、どう云ふやうな工合になさつたら宜いかと云ふことに付て詳しく御話することにして、今日は第一に話して置きたいのは皮膚です。

一體此皮膚の美と云ふことに付て、どう云ふ皮膚が奇麗であるかと云ふと、皮膚はキメが極く細かく柔かく艶々と光澤あるもの、其光澤と云ふは矢張り脂肪に關係して居るものでありますから多少の脂肪が皮膚の表面に無くてはならぬ、從つて皮膚に脂があれば決して皮膚が乾いたやうになつて、ガサ〳〵するやうな事はない、それから色はどうかと云へば薔薇色、淡桃色がゝつた色を持て、それからして極く彈力に富んで、彈力に富んで居りますれば皺等の寄らぬやうになつて居る、即ち是が極く奇麗な皮膚と云ふのである、併しさう云ふ工合に極くキメの細かに柔かく、艶々として居るやうになつて居るのは、總て色々のものが皮膚の中にあつて、其物が司つて居るのである、若も其皮膚の中にある所の物に多少變化を起すか、或は缺損するやうな事があると忽ち皮膚に於て變化を起すから、從つて皮膚の美と云ふものを、其處に欠くやうになるのである、デ第一に玆にチヨツト皮膚はどう云ふ工合に出來て居るものであるか、どう云ふものが皮膚の中にあつて艶の出るやうになるかと云ふことを極く搔摘んで御話しやう、ツマリ皮膚の解剖ですな、それから皮膚の生理と云ふものは、どんなものであるかと云ふことをチツト御話しやう。

皮膚の表面には細胞と云ふものがあつて、人間の躰と云ふものは皆細胞が寄つて出來て居る、皮膚の表面には三ツの種類の細胞が出來て居る、此細胞は總て上から這入つて來る所のものを防いで居るのです（辯士圖を畫く）此三種の細胞があつて、此細胞は無色透明のものです、透明のものが三種あると御承知を願ひたい、此三種の細胞の下に其細胞なるものゝ出來る所がある、それから此細胞が出來て段々上部へ上つて來る、一級、二級三級と云ふ風に段々階級が出來て居つて、一番上の方になつたのは一定の時を經てば取れてしまう、取れてしまつて、又直に下の第二のものが出來第三のものが出來て變つて來る、始終新陳代謝して居る、湯やなどへ這入つて暫

く擦つて居ると捻れて垢になつて取れる、之は上皮が取れ所謂新陳代謝して人間の躰から離れてしまうので、さう云ふ工合に新しいのが下から出て來る、それを名けて表皮と稱へるのである、表皮と云ふものは乳皮躰と云ふものから出來て、此處に細胞があつて此細胞が子を生んで行く、此細胞は無色透明て透き通つて見へる、此人間の皮膚には一種の色があつて人種に依つて色の變りはあるが、日本人種は黄色人種で黄色な色を持つて居る、其色は何處にあるかと云ふと、今御話しした乳皮躰と云ふものゝ傍の所の細胞が含んで居る、此含んで居る色の爲に人間の皮膚の色が變つた色に見える、それから下の方にも色々のものがあるが皮膚の表面からは見えない、上の所は硝子のやうに出來て居るけれども、細胞に澤山の色素を含んだものがあるから、下にあるものは是に遮られて見えない、又亞弗利加人種の黑くなつて居るのも此細胞に黑い色が着いて居るからで、白色人種は此細胞に色が少ないと云ふ工合で、

色が違うと云ふのはツマリ是に基いて居るのである、それからして其下には何があるかと云へば皮膚を養つて行く處の血の通ふ道が澤山にある、それからして神經もある、皮膚は神經の過敏なもので、物がチヨツトでも觸ると、痛い熱い冷いと云ふ風に能く分るのは即ち此神經があつて、それが直ぐに痛い痒いを能く區別する、其他必要のものが幾らもある、其必要のものは何かと云ふと、此下には汗の出る處がある、其の汗の出る口は何處にあるかと云ふと表皮の上に口を開いて居る、其爲に汗が出る、其他に何があるかと云ふと毛が生えるやうになつて居る、是等を詳しく御話すると大變に掛りますが、其の毛の生える毛嚢と云ふものゝ傍に脂の出る、脂肪腺と名ける處があつて、其中に澤山の脂肪が出來てそれが上部に出るやうになつて居る、デ其他に未だ色々のものがありますが、ツマリ此キメの細やかになつて居るのは何が爲であるかと云ふと、矢張り此表皮の工合である、表皮が能く新陳代謝して、古いのは

自然に取れてしまひ新いのが出て來て、それが極く平等に居れば、キメと云ふものは細やかになつて居る、若も此上皮に出來て居る所の表皮なるものが幾枚も重なつて取れなくなるとか、例へば長く入浴しないとか、或は又一の疾病の爲に上皮が取れないで着いて居る、又は餘り新陳代謝が劇しくして、上の方が取れる暇もなく變るやうになるとキメが荒びて來る、それからして光澤の十分にあるのは、どう云ふ工合からして成つて居るかと云ふと、此光澤は極く上皮の——今御話しした通り上皮は取れやうとして居るものであるから、それが少しでも乾いて來ると必ず光澤を失つて來るです、ツマリ其光澤の出るやうにするには脂肪腺と云ふ脂の出る處です、其處から脂が絶えず出て居る、それからして汗です、肝腺と云つて汗の出る所のもの、矢張り上に口を開いて居つて、目に見える程澤山に出るが、さもなくても少しづゝ始終出て居る、脂の方は無論のこと、それが上皮の方に自然に擴まつて行つて上皮の乾くことも是が補つて居る、補つて居れば皮膚はいつでも光澤が善くなつて居る、それからして若しも脂の出ることが少くなつて來れば、自然光澤もなくなつて來る——ガサ／＼と乾燥して來るやうになる、脂と云ふものは若い時分には出るが、何程十分保存しても歳を取つて六十歳七十歳となれば自然に少くなつて來る、少なくなつて來るから幾ら奇麗にしても歳を取れば何方を見ても、皮膚の表面に皺も出るし脂氣がなくなつて來る、即ち脂肪と汗と云ふものが共々に司つて居るのです、それから此色です、色は極く淡桃色を持つて居ると云ふのは、ツマリ今御話しした血管と云ふ血の通ふ道が透き通つて見えるのである、透き通つて見えるからそれで淡桃色に見える、それからもう一つは激しく刺擊をすると大變に血の行き方が强くなる、强くなるとそれが爲に一種の色を着けることがある、血の中から出した色素、血液の色が染まるのである、普通薔薇色をして居るのは、此細胞にある所の色素なるものが、下に血管を透通

して桃色に見える、又ひどく赤くなつて見えるのは矢張り血管が、ひどく充血して來ると赤く見えるのであります、さう云ふ工合に皮膚は出來て居るものでありますからして、今御話したやうなものが極く健全に少しも變化なくして、細胞と云ふものが能く新陳代謝して居り、それからして脂肪腺から出る所の脂肪の分泌する工合も、極く適當になつて居れば、皮膚と云ふものはいつでもキメ細かく柔らかく、艶々として色も薔薇色をして何處までも自然の美を保つて行かれるものである、それて此健康の皮膚と云ふものはさう云ふ工合のものである、けれども所謂「コスメチック」の欠損を起して居ることが隨分澤山ある、例へば皮膚に汗が出る、汗が非常に出る爲に腋臭のやうなものを起すともある、或は脂肪過度と云つて脂肪の度が多くて、額から絶えずギラ〱と脂の出る人がある、又は面貌と云つてニキビと云ふものがある、あれらも皆脂肪の爲である、それから又其ニキビが濃て一の腫物になるとか、それらは皆脂肪腺の中の變化からして起るのである、或は是からして隨分、多く見ることてありますが、此手足に疹瘡を起したりするのは皆「コスメチック」の欠損て、或は疣斑即ち痣があつたり、顔に細かい斑點が出來るとか疣があつたり、色々自然の美を缺いて居ることがある、それらの豫防法に就いて悉しく御話致したいのでございますが、今日は是て御免を蒙ります

抄錄

三大傳染病談

醫學士　山根正次氏談

我國に尤も恐るべき三大傳染病がある而かも其傳染病は次第に蔓延しつゝある而して其恐るべき傳染病とは抑も如何なる病氣であらうか私は一時的の病氣を指すにあらず持續的に流行を極めて人々に傳染しつゝある所の病氣が一番怖るべきものであると思ふ即ち此の怖るべき傳染病を豫防するにあらざれば遂

に一國の衰亡にまで影響を及ぼすものであると考へられる結核の蔓延は如何日本には實に此の肺病が殖ゑつゝあるのである日本人の病氣と云へば概して呼吸器病か否らざれば消化器病が一番多い就中其怖るべき傳染病は即ち結核である將來此の病氣を防ぐには各人銘々非常なる注意を要すべきであると思はる歐洲諸國では宿屋などの取締が充分に出來て居りまして日本の宿屋の如く黑襟の附いた蒲團をば前夜肺結核の病人に被せ今夜又之を次の客に被せると云ふやうなことはないのである唯今では宿屋に於ても敷布を用ゐると云ふことが大分流行して來て中以上の宿屋では枕にも白布の新しきものを用ゐるやうになりましたが上に懸ることは未だ一般に行はれて居りません私は明治二十四年歐羅巴から歸りて來て初めて日本の宿屋に泊り非常に惡感を起しました例の天鵞絨の脱色した襟の夜着を着せられたのである絹の布團ではあるけれども襟の天鵞絨の色加減では何百人の人に被せたものか分からない其後大日本衛生會に於て大に其危險なることを說きて注意を促し今日に至るまで常に此等の事に就て注意を促しつゝありますが未だ何分白の敷布を上に懸けると云ふことか擴がりません是等は宿屋業取締の上に於て充分早く實行せざれば何程病人を殖しつゝあるか分らぬと思ひます實に危險千萬の事である歐洲諸國では肺病のある人は自分自らも大變に怖れて他人に傳染せしめないことを努めて居ますが日本人は自分が肺病であつても爾ふでないやうな顏をして他人に傳染しろかしと云ふやうなことをして居ります殊に酒を飲む時などにはわざと他人に盃を獻う／＼と云ふやうな考を有つて居りますから尙更此の病氣が蔓延するのである佛蘭西の如きに至ては各人銘々嚴重に此の病氣の蔓延に注意し人々の往來する所の街頭には警察吏が立つて居りて吐痰の注意を與へて居ります米國の如きは街頭に痰を吐いた者には罰金を取る是等の注意は獨り街頭ばかりでない汽車の中でもプラットホームでも皆清潔にしてあります日本のプラットホー

ムは如何未だ唾壺の設けさへして居らない有様である是等に就ては私は鐵道衛生と云ふことの取調を命ぜられて居りましたから特に其建議を致しました外國では獨り唾壺に水を入れ置くのみならず或は叉石灰を置いて其中へ痰を吐くやうなことも出來て居ります此の一事にても如何に此の病氣の傳染に注意して居るかゞ分りましよう

次は如何なる傳染病であらうか即ち古來尤も厭ひつゝある癩病である萬國博覽會の時に癩病の數が調へてありました其中で何處の癩病患者が一番多數占めて居るかと云へば印度、マタカスカル、及び日本である夫れから大變に癩病患者の寫眞が出て居つた何處の人民が撮影されて居るかと云ふと熊本の清正公の所の圖であるとか或は東京荏原郡の癩病々院或は草津の溫泉場の如き癩病患者の集つて居る所の有樣が萬國博覽會に晒されて居つたのである之を見る吾人同胞の感情は如何であらう面して其數は如何と云ふには世界の大關……即ち日本の大關ではない所謂世界王であつて左右の大關は印度とマダカスカルである獨逸の如きは之に對して非常なる英斷を以て充分に之を防ぐことを行つて居ります今を去ること丁度六年前に萬國癩病會議と云ふものを開きました其當時は獨逸國內に何程の癩病患者があつたかと云ふと五十人斗りしかない即ち五千五百萬人中僅かに五十人の患者が出來たでさへ非常に怖れて此の會議を開いて豫防策を講じた是れは皆東洋から持て歸つたのか或は露西亞から傳染したのであらうと云ふので流石は衛生を重んずる國柄丈あつて實に大騷ぎを致したものである結局是れは隔離しなければ不可ない癩病は遺傳斗りでなく傳染する病氣であると云ふことになつて其豫防策を講じたのである

癩病が唯に遺傳病のみでなく傳染するものであるとの學說が決定致す以上は即ち其黴菌があるのだから街頭で乞食をさせたり或は通常の病院に入れて置いたりすることは勿論人の家の中に同居することも甚だ危險である故に之を隔離しなければならぬと云ふ

のて其會議の決議を實行して直ちに癩病患者をば悉く「メーメル」の隔離病院へ追遣つてしまつた斯く國家的事業として之を防ぎました結果今日に至りては僅かに五千五百萬人中十二人に過ぎざる患者である日本の癩病血統を調べて見ると九十九萬人以上もある而して目下現に發病して居るものが三萬人余てある此の忌むべき病氣が日夜蔓延しつゝあるも未だ之れに對して何等の豫防策を講じつゝあるを聞きません或は乞食となりて街頭に其病汁を落して往來する鼻汁でも涙液でも是れには皆黴菌が棲んで居るので實に危險千萬のものである布哇國の如きに至りても之れを隔離して居ります獨逸では國家か熱心に之を防ぐことに盡力して居るにも係らず人民が慈惠上の金を集めて其不幸なる人に贈り一生安樂に暮させるやうなことも致して居ります日本に於ては此の怖るべき忌むべき病氣が非常に蔓延しつゝあるのであるから之れに對しては餘程注意して防がざれば何時非常なる慘狀を來すやも測られぬ次第てあります

其次に尙ほ國を亡ぼすところの怖るべき傳染病があるのである即ち梅毒の蔓延である日本に於て黴毒の蔓延と云ものはなか／＼大なるもので軍隊を取る上に於ても非常なる結果を來して居ります今日の日本にて梅毒患者を取らぬときは殆ど軍隊は出來ないかも知らぬと云ふ樣な現況である若し今日のまゝにて行くときは最後には梅毒患者が悉々く鐵砲を擔て戰爭をするといふやうな事に立至らうかと思はれます今日は治療の方法が進みて居るから之れに對して大分要心はして居るけれども元來梅毒なるものはなか／＼容易に治らぬ病氣てありますから一朝此の病氣に冒さるゝ時は或は眼を失ひ或は鼻を失ひ耳を失ひ或は腦病の原因となり又は發狂の原因となるなど種々な煩ひがあります加之ならず此の害惡は一個人に止まらずして子々孫々まて禍害を遺します或は他人にも傳染せしむるのてある殊に家族血脈に及ぼす害と云ふものは頗る甚だしいもので其結果は肺病にも罹り易いと云ふことになつて居ります歐米諸國にて

は黴毒の國民の元氣に及ぼす害毒は甚だしいものである或は經濟上或は一個人の家計に及ぼすところの害毒は實に重大なるものであると云つて居る故に之を防ぐことに就ても亦實に汲々と怠らず經營して居るのである彼の淫賣婦の取締の如きは實に嚴重なるるのである併しながら米國などは敎育の程度が違ひますから一個人が之を防ぐと云ふ上に於ても大分注意の仕方が異なりて居る近來日本では之れに對する取締が或は緩慢になりて居りはしないか知らぬと思はるゝが淫賣婦の取締の如き或は檢黴法の如きは決して緩くしてはならないものである此の傳染病の爲めに我國の損害不名譽は如何許か知れぬ……

試みに歐米諸國に於て此の黴毒に對して如何に注意しつゝあるか如何に豫防しつゝあるか其一班を擧ぐれば彼の國に在りては假令娼妓が自由廢業をすると云ふても病室から直ぐに之を廢業せしむると云ふやうな事はないのである佛蘭西の如き又獨逸の如きは淫賣婦或は娼妓牢屋へ入れて治療して居るのでなか〱嚴重なものである殊に佛蘭西では萬國博覽會を開いたときに浮浪の徒が許多集つて來るから警視廳の如きは一生懸命に淫賣婦及び浮浪者に對しては嚴重なる取締をなし一日に何百人となく捕へ來りて之を本國に送還し或は夫々處分すると云ふことになりて居りました其數實に非常なるもので私が巴里の警視廳に參りた日の如きは淫賣婦の捕へられて居りたるものが百三十人餘もありましたが是れは悉く檢査をして病氣のない者は將來を戒めて放還せり或は罰金を取り又病毒のある者は直ぐに監獄內の黴毒病院へ送り嚴重なる治療を受けさせて居ります其の百三十有餘人の淫賣婦なる日本人を異域の巴里の警視廳に於て見たる當時の私の心中は如何であらう否な私のみならず等しく同胞の親ある總ての我日本人の心中は如何であらう日本では一般に衞生思想の乏しい結果斯樣なる方法は未だ實行せられず醫者に懸りて能く治療を受けて置くと云ふ考へも薄いのでありますから是れば是非共充分に實行せねばならぬと思ふ

此の病氣位恐ろしいものはない嘗て伊藤侯が神戸の知事であつたとき英國の醫者が日本には國を亡ぼす所の病氣があるが知りて居るかと云ふ問を起されたと云ふ事を伊藤侯が神戸で談されたそうでありますが實に國を亡ぼすべき病氣と云ふは何であるかと云へば即ち梅毒である假令へば身體の强健なるものを得る立派なる兵隊を得る立派なる職工を得ると云ふ上に於ては後來不道德なる結果から起るところの梅毒を充分に豫防しなければ國家が如何なる傾向になるかも分りません是れは少しく中惡くき談なれども或る海岸の軍人の居る所で軍人の身體を檢査した處が殆ど花柳病に罹つて居らぬものはなかつたと云ふやうな有樣である夫れと云ふのは一般に彼等の遊びに行く所の取締が充分に出來て居らないから夫れが爲めに遂に彼等の病氣に罹ると云ふことになり升故に此の梅毒を豫防する上に於ては國家事業として充分注意せねばならぬ即ち社會上から云つても經濟上から云つても國民の元氣の上に及ぼす害から云ふても我々は一生懸命に是れか撲滅策を講ぜねばならぬ私は梅毒を防ぎ癩病を防ぎ又結核を防ぐことに就いては後來今一段立派なる規則が制定せられて最も嚴重に之を防ぐやうにしなければならぬ無論道德と云ふものも充分に行はれて双方より之れを豫防撲滅することが頗る必要であらうと思ひます

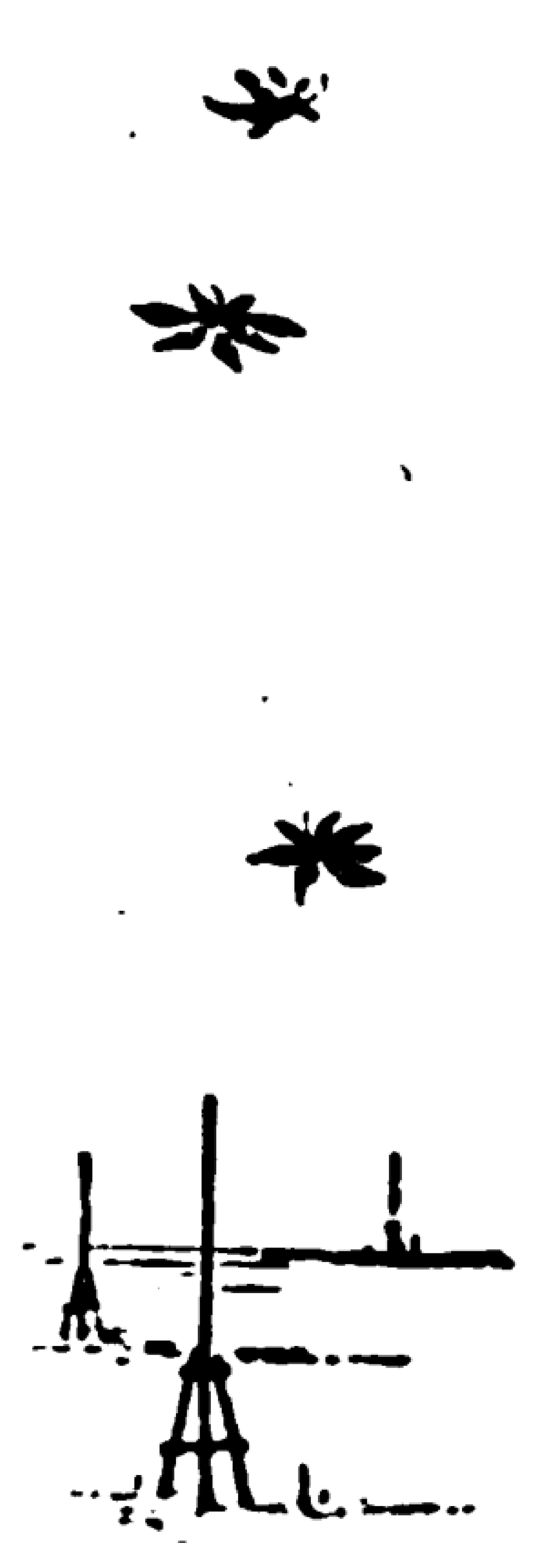
前述の如く甚だ怖るべき病氣に對しては歐羅巴などは皆一の療養院へ集つて治療を受けると云ふやうな風になつて居る又之を集めて置く所が出來つゝあるのである亞米利加の如きに至りては若しも癩病であるとか或は肺病であるとか云ふものを見た時には誰でも彼でも衛生を司る處の役人に向ひ直に端書を以て通知することになりて居る是れは市の衛生部から活版摺の端書を出して置くので若しも其病人を見るときは直に端書を以て通知するのである若しも其中に病人の死ぬやうな事があれば充分に消毒をすることとは無論である監獄の如きも夫れ等に對しては能く注意が屆て居ります囚人が肺病に罹つた其室へ他の

囚人を容れるやうな惨酷なことはいたさない壁から何にまで皆剝てしまい充分なる消毒をなし寐臺の如きものは一定の熱氣消毒を爲し再び元の室へ納めた上てなければ決して他の囚人を入れません斯の如く總ての手當が届いて居り升から宜しうござり升が日本に於ては未だ總てのものが届いて居りません

終りに臨みて急性傳染病に對して私が歐米諸國巡遊中目睹耳聞に存する一二を御參考にもと概略御談致しましようが此の急性傳染症に對して日本の商業の華主先なる亞米利加の如きは大變に日本には傳染病がわると云ふことを恐れて居ります其恐れを懷ける結果は如何てあらうかと云ふと昨年の侮辱事件のやうな事が起るてあらうと思ひます凌辱事件の如きは昨年に始まらぬ事て以前より屢々見る事柄てある既に桑港に於ては最も苛い事をやるれて居ります日本人と云ふものは既に傳染病の國のものであると云ふて居る夫れが爲めに何程の輕蔑を受けて居るか分らないのてある日本人の事を亞米利加ては色附人種と云ひ亦獨逸ても亦色附人種と云ひます黄色人種てあるから色の附いた人種だと云ふて別物にして居る其結果として色附人種に向つては昨年までは全く別物なる方法を行つて居つたのてある桑港へ日本丸の着た時には如何てあるか如何なる取扱をされるてあるかと云ふに恰も日本内地にペストの流行した時分てありましたが日本丸が餘程嚴重なる取扱を受けて居りますソウして嚴重に撿疫を行つた上船内には消毒法を施行した夫れから港内へ這入りて行くと日本から持つて行つたものは荷物も何も悉皆消毒してあるにも係らず之を揚けさすることは出來ないのみならず合衆國の政府で行つたのは未だ險呑であるから市ていま一度消毒しなければならぬと云ふて二日間も掛つて再び消毒を致して居ります合衆國の政府か行つたら宜かりそうなものだが尚桑港市が夫れに對して上陸を許さない日本に於て外國人の海港檢疫を嚴重にしたならば如何であらうか一向嚴重にしない所てはない其取扱はビクリビクリして居るやうてある

が是れは最も嚴重に施行するか宜いと思はる外國人は日本人に對してなか〱嚴しく行つて居るは裸體にされたやうな事は獨り布哇國に於けるばかりではない既に埃及に於ても日本婦人が裸體にされて檢査を受た者があるのであります併し其醫者は女醫でありましたが如何しても日本國内に病氣のないやうにしないと外國から輕蔑を受けます而して商業上に及ぼす損害は前に云ふやうに日本から持つて參つた物は陸揚をさせない又日本がカリフォルニア州を越ゑて東の方へ進みて行くには恐く血精注射しなければ通さないと云ふやうなことまで一時は行はれて居りましたそこで私共は大分に苦情を云ひ立てた所が其樣なる日本人丈は許さうと云ふことになつて遂には私共は進むことが出來たのである夫れて傳染病の豫防に就て充分に嚴密なる方法を盡して居らぬと國内に在りて日本は文明國である西洋と共に互角の國になつて居ると云ふて威張て居つても外國へ一足でも乘込て行つたときには何の役にも立ちません彼の北清事變の戰爭に於て日本の成績が宜かつたから私共が巡遊する上に於ても非常に評判が高くて威張て廻られたやうなもの丶傳染の在る事などに就ては大に輕蔑を受けて居りますから互に充分急性傳染病浸性傳染病其他の衞生上の設備に付充分に力を盡して之れが豫防撲滅策を實行致したい左もなければ日本人○が列强文明國の間に立ちて並び行くと云ふことは至難であらうと思ひます希くは新聞に雜誌に演説に敎育にあらゆる手段を盡して眞個に傳染病豫防且つ撲滅するやうに致したきものである否らざれば所謂磊々と宇内に揚かれる我國威も爲めに失墜せざる事なきを保せず實に恐怖すべく又豫防すべき一大事てあると思はる

「完」



●看護婦の禮式

醫學士　竹中成憲

此頃予の監理せる赤十字看護婦養成所に於て禮式を定めたり思ふに本雜誌は全國看護婦にして愛讀するもの頗る多からむ而して各所互に聯絡なくして看護婦を養成しつゝあり且つ學術にのみ走りて禮式の如きは或は之を文字に記して敎ゆるの所あらざるべし故に之が掲載を乞ふて一は既に實地に從事するものゝ參考に資せしめ一は敎鞭の位地に在る士人の一讀を煩し以て增補添削の榮を得むと欲す是即ち稿首に草案の二字を附する所以なり各項號を附するも亦討究の便を圖るに在り

▲看護婦禮式草案

第一、敬すべき人に對して正面し姿勢を正し其眼に注目して體の上部を少しく前に傾く之を敬禮といふ

第二、上席の人の室に入るときは其席を距る事凡六步の所に於て敬禮を行ひ命を受け又は陳述をなす事あらば更に適宜に前進して敬禮を行ふべし陳述を爲すには活音を以てし單簡明亮なるを要す

第三、高貴の人、室内に在るときは室に入るや直に一回敬禮を行ひ然る後前進して命を受くべき人の前凡六步の所に到るべし

第四、若し同室内に數名在るときは先づ最高級の人に敬禮し次に他の一同又は命を受くべき人に敬禮するものとす

第五、上席の人より辭令其他書類を受くるときは敬禮を行ふの後適宜に前進し右手を以て拜受すべし

辭令書は其際左手を副て少しく披見し直に之を收め舊位に復し再敬禮を行ふ可し

第六、書類其他の物件を上席の人に呈するときも前項の如し返簡若くは領收を受くべきときは舊位に復し姿勢を正して待つべし

第七、退去するときは命を受けたる人に敬禮を行ひ舊位に復し再び敬禮を行ひ右轉回を爲して退去すべし

第八、事急なるときは第二の敬禮を省く事を得室を去るに當り高貴の人室內に在るときは轉回を爲したる後更に其人に向て敬禮を行ひ室を去るに當り出口に於て更に敬禮を行ふべし

第九、上席の人居室に來るときは椅子を離れて立ち敬禮を行ふものとす而して其關係ある本人の外傍に在て事務に服するものは一旦敬禮を行ふの後は各其事に服し上席の人室を去るとき起立姿勢を正して後復た敬禮を行ふべし

第十、同號又は下級のもの居室に來り敬禮を行ふときは同號なれば一旦椅子を離れて敬禮し下級なれば其儘答禮するものとす

第十一、上席の人と同室內に在て陳述を爲すときは椅子を離れて立ち姿勢を正すべし

第十二、途上は勿論廊下及び庖厨等の如きは室外とすれども看護婦は室外たりとも停止して室內と同一なる敬禮を行ふものとす

第十三、帽は如何なる場合といへども之を脫すべきにあらず

附

看護婦心得

(一)專ら行狀を愼み淑德を重じ粗暴不遜の擧動を戒め聊かも高慢なる言語動作をなす可らず

(二)病者に對しては懇篤親切を旨とし隔意なからしめんを要す。

(三)言語動作は靜肅を要すと雖其嚴に過ぐる時は

却て病者をして嫌忌の念を生ぜしむることあり故に溫順柔和にして喧噪鄙猥に流れざるよう務むべし

(四)作業は敏捷周密にして聊かも厭忌怠慢の狀を現すべからず

(五)一般に清潔を旨とし病室内の諸物を亂雜不潔ならしむ可らず又數々沐浴し頭髮身肢を清淨にし衣服を整へ常に容姿を正ふすべし

(六)多人數同時に勤務する時は看護婦たると附添人たるとに拘らず互に同心協力し軋轢等の行爲ある可らず

(完)

●箴　言

人のうれひ苦しみをおもんはかりて、人の妨となる事をほどこすべからず。常に心にあはれみありて、人をすくひめぐみかりにも人を妨けくるしむべからす。我ひとり樂しみ人をくるしむるは天のにくみ給ふ所おそるへし

（貝原樂訓）

衞生雜話



醫學士　久保猪之吉

●爪の話●

諸姉、年の詰に爪のお話をするのは何と無く妙な工合でありますが、理由のない譯てはありません「ツメ」といふ事は、物のオシヤヒをいふ事です年のツメは一年の終りです爪は人間の手や足の指先のその端です。昔から終をよくするといふ事がありませう。一年の終りをよくするは、新しい年をうれしく迎へる第一の方法です。又今迄折角よくやツて來ても終りの一ツて壞して仕舞ふのは日本でも西洋でも同じやうに、いやしむ事になツて居ります。「百日の說法屁一つ」といふ事があるのも、その眞理を穿ッたものてしやう。同じ事が爪にもあてはまります。すなはち、いくら雪のやうな手を持つて居つても爪が伸

びて黒いものがついて居つては興がさめます。又衛生を守る人でも爪の事に氣が付かず。それから病を作す事かよくありますですから爪は馬鹿にならない所です。

●爪を見て獅子を知れ●

西洋の諺に「爪を見て獅子を知れ」といふ事がかいてあります。その意は爪だけ見れば身躰を見なくとも、すてに、獅子であるといふ事が分る人間もソーてす、爪の先と爪の下の垢の工合を見れば、その人は平常衛生に心掛けて居るか又は清潔癖が、ドーかといふ事が分るものです。ですから淑女、とも呼ばるゝ方は爪の養生を怠つては大きい恥辱といはなければなりません。人間の爪は猫や鷹のやうに他人を引つかいたり、傷けたりする爲に用ふ武器ではありません。

●爪のある理由●

喧嘩などて他人を引つかくのが人間の爪の作用てないとすれば何の用があるかといふに第一、爪は指先を守る塀のやうなものです、指先は手でも足でも人間の端くれにある、それですから物により衝き當る。もし此所が爪をはがされた人のやうに全く爪が無かつたならば一寸した事にもスグ怪我をする。ですから此所を守る必用があります。又此指先といふのは物の堅いか柔かいか、重いか輕いか、滑らかか荒々して居るかを知る場所です。それには後側に爪のやうな堅い板が無ければフラ／＼して感じが分らない。次に爪は小さなものを抓み又は採つたりする道具として欠く事の出來ないものです。ソレから爪は手のかざりです、いくら美しき手で揃つた指でも爪が美しくなくつては、いけない事は前にお話した通です。爪の甲の色などが美しい鮮かな光澤のある色をもつて居る所は身躰の他の場所にはありますまい」

●爪は死物か、生物か●

爪は切つても、ツメツても いたくないのを見れば死んだ品物のやうであるが、毎日毎日延びて行く。殊

「に死んだ後にも延びる、それはよく書物にかいてある通り、死んだ時、キレイに爪を鋏み切つて葬つた死体を、日を經て掘り起した時、改めて見ますと、長く延びて居つたといふ事がある、その點から見ますと、血液の通をうけて生きて居る事が分る。しかし他の所は血の氣が絶えて死に果てた後にも尚爪だけは、貯へた勢で延びる事の出來るものだといふ事が知れる。丁度毛と同じ譯のものです、それだから、伸び出て居る所は神經も無く、血も通はない死物、丁度松の樹の皮のやうなものですが光澤のある赤くなじて居る所は盛に血の通をうけて生きて居る所です。今少し爪の解剖の事をお話して衛生の事に移りましよう」

●爪の名稱●

皆さん、御自分の指を一本お出しになつて、ツノ甲をご覧なさい、その堅くして居る所は、牛や羊の角と同じもので、顯微鏡で見ますと頭から落ちて來る、フケと同じ性質の上皮が集つて堅くなつたものです、ですから爪も皮から出來たもので毛と同様です、此圓く高く成つて居る爪の下には肉がある爲、透通つて赤く見えるのです、此所を爪床といひます、こゝは血が通つて爪を養ふ所ですから爪母とも申します。此所を左右に傳つて來れば谷のやうな低い所に落ち、爪は此谷にはまつて、終つて居ます。谷の外には爪先の皮膚が堤のやうになつて、高まつて居ます。此堤のやうな所を爪廓（ツメノカコイ）と申し、谷の所を爪谿（又は爪皺襞）といつて居ます。爪は爪床の上に見える所計りで無く、その一部分は指の皮の下に深く這入つて居ります。そこは爪の根に當つて居ますから爪根と申します。此爪根の所をよく見てご覧なさい。ドノ爪にでも三日月形の小さな白い場所があります。爪半月といふのは此所て、コレは爪の一番盛に伸びる場所です。コレ位の名稱を知つて居れば爪の解剖は澤山です。

●理想的の爪●

みなさんは上野へお出でになつて美術展覽會の繪を

ご覽になつた事がありましやう。その中によく仙人の繪がありましやう。又亞人の繪もありましやう。その手の指をご覽なさい、長い〱爪がよく書いてあります。その先は少し曲つて熊手のやうになつて居る。支那の婦人の畫にもよくわります。それが理想的の爪でしやうか。若しも人間が仕事をしない動物であるならば、出來る丈長いのも珍しいでしやう。しかし、今の人はそんな、危險な爪を以て誇るべきではありません。しからばドーいふのが可いかと申すに。平で無く、反ッて居るで無く、左と右とに少しつゝ圓み、前と後とにも少し圓く高まり、色は薄薔薇色で、滑かで凹凸が無く、條が荒ボク無いのがよろしい。又爪牛月はハッキリと見えて白みがゝつた薄赤に見えて、爪の質は乾き過ぎて柔かに過ぎないのがよい、若しも乾き過ぎれば脆くなつて折れやすくさけやすく成る、若又柔かに過ぎれば光澤が失くなつて曲りやすく、物に衝き當つた時指を拒ぐ役目が勤まらない。かやうな理想的の爪を得るのは養生が肝要です。」

●爪垢●

イクラ穢ないといつても爪の先ほど穢ない處はありません。ドンナものでもさはれば爪にふれる爪にふれれば爪の下に溜る。痒いといへば直に爪でかきましやう。頭のフケは爪でかく。垢によりてはキタナイ鼻垢迄も爪の先でとります。ですから爪垢を顯微鏡で調べた人の話に此中には數限りもしれない小さな病氣を起す黴菌や、虫の子や、垢や、毒物や、集つて居るといふ事です。それですからキタナイ爪て黴菌や毒物の貯蓄所といつてもよいのです。

●爪でかくのは●

爪でかくのは人の習慣です。顏に「ニキビ」があれば暇に任せてイヂルのはよくある事です。近來、私の家へ來る病人で、二三日見えなかつたから、ナゼかとおもひましたらその後顏の半面をはらして參りましたドーしたのかと尋ねますと、顏に小さい「ニキビ」があつたのを、かきこわしますと翌日、かや

うに、腫れて來たとの話です。此は疑も無く小さな疵・・・それは、尖つた爪先でかきこわした・・・から爪の下の毒な虫を植えて來た爲めて顔面に膿を持ち、そしてかやうに腫れて來たものです。コーなると顔を切り開いて膿を出さなければ直らない。キタナイ爪の先のおそろしい事はかやうです。又キタナイ病氣・・・コワイ病氣で癩病といふのがありましやう。西洋では癩病になると仲間入が出來ない遠い所に島流し同様になります。ですから、獨てあたりには殆と見たくとも居ない、所が日本では雜居して平氣です縁日か何か人の集る所には公然出て來て人の袖をも引ッ張りかねない勢です。所で、その癩病はやはり病氣を起す黴菌があつて人から人にうつる病氣となつて居ります。志かるに癩病のはじめを見ると鼻から――しかも鼻の入口からはじまるのが多い。それは多分爪で鼻をイヂル時爪垢の中にひそんで居る癩病の黴菌を鼻の内に小さい創から植えて來るのだろうといふ事です。是れを考へても指の先で鼻垢をイヂルのはコワイ。唯人の前て見苦い、失禮なばかりてはありません。

●爪を噛む人●

肝癪な人、婦人て申せば 氣ムッカシイ いはゆる「ヒステリー」性の人などはよく爪を噛む癖があります。小兒の時によくあります。ソーイフ人の指をみると、丸て坊主になつて居つて爪の先は高低に鋸の歯の如く、指先は圓くて、太皷の棒のやうになつて居ります。ソレハ獨り爪の功用を失ふばかりて無く、中の毒を口に入れ飲み込みて胃に入れる譯てす、だから病氣の種子をたべると同じで危險此上も無い。その外指の先をかみ切りてコ、からもわるいものがはいり膿をもつ事がある。それて爪をかむ習慣は母たる人が十分注意してやめさせなければイケマせん。」

●箴　言

古語に忍は身の寶なりといへり。忍べは、殃なし。忍ばされば殃あり。忍ぶはこらふるなり。慾ならさるを云ふ。忍と慾とはしのふべし。およそ、蒼生の道は忍慾をこらふるにあり忍の一字守るべし



看護法

◉傷面散布藥

醫學士　米山彦郎

次に傷面に種々の目的にて散布せらる一二の散藥を御紹介致しましよう。

(1)亞澱散　之れは亞鉛華と澱粉とを等量に混じ製したるものにて傷面又は濕ひ勝ちなる濕疹、發汗しやすき腋下肢間などに散布するに用ゐます。

(2)釜見散布粉　之れは一〇〇、〇のギプス粉に十五、〇の割に釜見を混じたるものにて惡臭を放つ潰瘍面に散布するに用ゐます

(3)沃度仿謨　之れは廣く用ゐらるゝ黄金色の光輝を放ち甘き樣な强き臭氣のある有毒の粉布にして傷面防腐劑として散布されます。併し此は有毒であるから日々しかも大量に使用する時は往々創面より吸收せられ爲めに中毒症を起こし頭痛、眩暈、昏瞶、幻覺(現在なきものを見又はなき音をきく等)睡氣等を起こし脈搏は微小にして頻數となり時としては躁狂の如き精神症狀を起こし危險でありますから豫じめ注意せねばなりませぬ。夫故多くは小さき傷面に僅かばかり用ゐます

近頃沃度仿謨代用藥としては色々ありますか其一二を擧げますると

(4)沃度フォルモゲニウム　殆んど無臭の沃度仿謨蛋白質化合物にて其内には10%の沃度仿謨を含くみ其色は鮮黄にて極めて輕き粉末にて水に溶解せず創面に撒布せば健康なる肉芽の發生を促がすとの事です、

(5)沃度ガリチン　本藥は無臭の暗灰白色の輕き粉塊にて水アルコール脂肪エーテル機發油グリセンナなど普通の溶解液にとけ又昇汞水及フェノールの如き消毒藥にも沃度ホルムよりは能く混和しますから創面に撒布すると平等に分配せらるゝ利益もあり一方

には無臭にて功能も著しとの事にて賞用されます。

(6)沃度兒　八十九%の沃度を含み撒布料となすには粉末となりて先づ創面を充分に乾燥させ後に撒布するがよいとの事です。婦人生殖器の黴毒性潰瘍、硬性の軟性の下疳にも良効あるとの事です。

(7)イトロール　銀と林檎酸との化合物にて創面に防腐として用ゐられます。

(8)アイロール　灰白綠色無味無臭不溶解性の粉末にて創面を乾燥せしむる爲め又早く肉牙の生ずるを催すために撒布されます。

此等の撒布藥を用ゐるには吹粉器を以てか成遠方より細粉となし創面一面に平等に薄く附着する樣に注意せねばなりませぬ若し不平等にしかも多量に用ゐますと反て創面を刺戟し分泌をまし其上に痂皮を結ぶに至ります。散粉したる上には脫脂綿の一層をおき分泌物を吸收する樣にし次に繃帶せらるべし。

●軟　膏

創面の治療には昔は非常に軟膏が賞用されたそうですが今日は左程用ゐられませぬ併し猶色々の事に用ゐる場合がありますから其一二を擧げましよう。

(1)硼散軟膏　創面につきても刺戟餘り强からざる爲め廣く用ゐられます。之れ一分又は二分の硼散に三〇分の割に華攝林を混じ煉製するのです。小さな淺き乾性の創面又は痂皮を柔らかにし取除く爲めに其上に貼用されます。

(2)拔爾撒謨軟膏　ペルーバルサムの三分も華攝林三〇分と混和して製します。

其他非常に數多き軟膏の種類がありますか餘り專門に涉りますから玆に畧しますか。偖て軟膏をつくるには如何にして製するかと申すと先づ清淨なる金屬製又は陶器製の平板をとり其上に軟膏となすべき原料をおき金屬又は竹の箆をとりよく煉り混ぜるのであります。實際に使用する時には創面に應じたる大さの亞麻布、綿紗、綿布、リント等の切片に箆にて軟膏を薄く塗りつけ之れを傷面の上におき其上に乾きたる綿次に繃帶を纏包するのです。兎角に有り

勝ちの事ですが膏藥を布の上に擴ぐるに指を用ゐたがりますが必らず篦を用ゐる樣に注意せねばなりませぬ

●拭創綿

創面の分泌物、血液、汚物などを拭ひ去り淸淨となすには消毒したるがーゼ又は脫脂綿を其儘でも用ゐますが最もよきは此等を球となしがーゼにて包み所謂人工的の海綿となし之に柄を附けたものです。之れは用ゐる以前に少くとも三十分間蒸氣消毒器にて殺菌し又は5.0‰の昇汞水中に貯へてありしものでなければなりませぬ。

手術の際に血液を拭ひ去るには前述の人工的の海綿の代はりに眞の海綿の小なるものを用ゐる事があります。勿論此海綿は特別の注意を以て取扱はれ又其外の目的には一切用ゐる事は許るしません。其製法といふのは性質のよき緻密なる海綿を撰らび之れを木の槌にて靜かに打ち其内に含くむ石灰類を碎き後湯にてよく洗ひ出だし淸淨となしかくして得たる多くを白布にて一纏めとなし沸騰せる1%の曹達水中に二十分程おき其後ちは殺菌水にてよく曹達を洗ひ出だし0.5‰の昇汞水中に貯へ初めて用に適します。一旦用ゐた後には前と同じ法をくり返へせば再三用ゐられ到底用に堪へざるに至る迄用ゐられます。勿論此等の方法が煩冗にもあり費用も要する事なれば只病院などにて常に使用の多き所のみに適用せらるゝので其他の場合にては一度沸騰し又は千倍の昇汞水に浸したるがーゼを使ひ捨てになさるべし。

●防腐繃帶材料

凡そ創面に繃帶をおく重なる目的は一には傷の摩擦する事を防ぎ二には外來の害物例へば空氣中の病毒素、汚物などの創面に附着し腐敗釀膿等を惹き起こすを避け三には創面よりの分泌物を除々に吸收せしむる爲めです。此故に繃帶は須らく其質柔らかにして淸淨なるべきは勿論しかも殺菌したるのでなければなりませぬ其上よく液躰を吸收せしむる爲めに脂肪分を脫してある事が必要です。

夫故繃帶料を得るには先づ加里滷汁にて煮沸して脂肪分を去り次に少なくとも三十分間熱したる蒸氣中にて或は制腐溶液中に浸するによりて消毒し後に乾燥せしめなければなりませぬ。

斯く注意して得たる防腐繃帶料も一旦空氣に曝らし若しくば汚物に觸るゝ時は忽ち空氣中無數に浮遊せる腐敗菌が附着し折角の殺菌も無効となります。夫故嚴重に申せば繃帶料は製したるや否や直ちに使用せねば其効力なきものですが必要の場合に一々前述の如き繁雜の事を行ふは言ふべくして行はれざる事ですから吾々は通常シムメルブッシユ氏の考案せる消毒貯槽を用ゐて繃帶料を貯はへておきます。之れは良く密着する蓋つきの金屬製の器にて側壁には蒸氣消毒の出來得る樣に開閉自在の多くの孔を穿ちてあります。

防腐繃帶料を取扱ふには新たらしく消毒したる手の外は決して觸るゝ事は許るしませぬ又猥りに手の上などに置く事はなりませぬ。要するに成るべき丈け外氣に曝らさゝる樣に汚物に觸れぬ樣心掛くるが肝要です。

次號には繃帶となすべき原料につき御話し致しましよう。



衛生時事

醫學士　久保猪之吉

●十二月●

瀧野川の紅葉も漸く散ッて、團子坂の菊も枯れはてて、霜白く風寒しといふ時候になりました。横濱のペストも幸に甚しい流行を見無いでやみ。學者の間では大分議論のあッた「コレラ」病も思ひの外にひろまらないですんだやうです。それといふのも日本の衛生が進だからです。例へて申せば、「ペスト」が出たといへば、スグ交通遮斷を行ッて病人のある

家の近くには出入をするが出來ぬやうにし、その上、をしげも無く建物を燒きはらッて仕舞ふ、高い金を出して鼠を買ひ上げるそういふ風に土臺から病氣を無くして行くといふ方針を執ッて居ます。虎刺拉にしても、病人はスグと避病院に擔ぎ込む、あとの消毒はよくする。又下水はてきる丈ケを出して掃除する、水道は安くて引けるといふやうに一躰が進んで來ました。又一人一人の方からいッて見れば、衛生の事に注意するやうになッた、殊にゴ婦人がたは、かやうな衛生會といふものに御熱心なされて、萬事學問を話して應用するといふやうになりましたから日本の衛生もかやうに進歩した事と考へます。猶此上とも、諸姉一致して御盡力あるやうに願ひます。

●オ正月近し。●

みなさんー　オ正月は直ぐ近くなりました。それで何が一番うれしい新年の悦びかと申せば家内のこらずが、無病息災で初日の出を迎ふる位樂しい事はありますまい。それをミンナが揃ッて、オ祝ひの雜煮餅にても食べやうといふ時、自分け加減がわるくッて蒲團を被ッてをるやうでは、これほどッライ事はない。しかるに此寒い時節柄、風邪引きがコワイ折角太晦日迄丈夫でやッて來て元日の朝から風邪といふやうでは無念な事此上ない計りてない一年の計事は春に在りて元日にクルイがくれば萬事皆イケナクなる。ソレで私は風邪を引かぬやうオ勸めしたいとおもッて、是から少し筆をとるのです。

●風邪は萬病の原因●

昔は風邪が凡ての病氣の原因と考へて居ッたそれて、「リューマチス」ても、「鼻カタール」ても、肺病ても、氣管支病ても皆風邪として居ッた、或人のいふには「私は氣管に風邪を引きました」といッた事がある、それよりもッとヒドイのは、ハシカ(痲疹)ても「チブス」ても、赤痢ても「ヂフテリー」ても、紅熱ても何でもかても、風邪からはじまるといふのは俗人ばかりてなく古い醫者は皆ソーいうてをる。

俗人は病氣の起りを問ひ正すと皆「始めに風邪を引きましてそれからコーなりました」と答へるのが常である。しかし今では顯微鏡で漸く見える位な少さな黴菌がそれ〳〵病氣にあッて「チブス」となり、「ハシカ」となり、赤痢となる事が分ッた、その黴菌の傳染するのが病氣の傳染するのであるといふ事も分ッた。それて風邪が直に病氣の原因であるといふのとは少し意味が違ふ。

●風邪とは何ぞ●

昔の人たちがおもッたやうに風邪そのものがいろ〳〵の病氣の原因となるのではない。「チブス」には「チブス」の黴菌があッて起る。しかし、風邪を引けば、身躰の抵抗する力が弱くなッて、病氣を起す黴菌にとりつかれやすい。鼻の腔をご覧なさい。明きぬけてあるから、空氣中に住むでをる、種々の黴菌や毒なものは皆此中へ這入る、それですから、鼻の中て少し加減のわるい所が出來れば、それ等のものは皆ふえて來ます。口の内も同じ事です。風邪といふのは、ツマリ身躰の血のまはりが平均を得ない爲め、言ひ換へれば、或一ッの場所例へば手とか、足とか〳〵非常に冷えて來ると、血が皆身躰の内部に這入り、血が餘計に溜る、ソーなると、熱もでれば、頭も痛くなる、又血の滯ッた所には、黴菌も能く育ッて來るといふ工合になる。それが風邪の起る順序です。」

風邪の起りやすい身躰の

風邪はツマリ温度の差異が出來てくるからです。ですから若しも、冷えれば冷えた丈にその部に血液が多く流れて、平均を失はないやうにすればよいのです。人の身躰には自然とソーいふカラクリが具ッて居る、例へば寒い風に向へば毛穴がふさがッて、温度や蒸氣の出かたが少くなる、即ち所謂鳥肌となッて毛穴の所が高くなるのは、その爲めです。猫などになると毛が總立ちとなッて、プク〳〵ふくれます。又もッと寒くなると手足がガタ〳〵ふるひ出して、自然と運動の爲め身躰に熱が起る。又、皮の血

管が擴ッて血が澤山流れてまゐります。ソレですから手足が寒さにあへは、眞赤になッて暖ッたかになる。所が皮膚の弱い人は此反應が甚だ鈍い、又は起らない。それで直ぐと風邪を引きやすい。

○感じの強い人。

人によれば雨のふるのが前からわかる。例へば「明日は雨が降るな」と、いふ頃には頭が重くなり、關節々が痛ンで來る。雨が近くに從ッて益々、頭痛や腹痛が烈くなり、天氣が直れば氣分も直るといふやうに成る。かういふ人は極めて感じの強い人々て、晴雨計や、寒暖計よりも更に鋭敏なるがある。日外、老人の歌讀みでかういふ歌を詠だ人がある。

朝夕のあつささむさを計り知る
　器にまさる我身なりけり。

年をとると感じが早くなる、ですから病に侵されやすい。感じの強い人も少しの天氣に變りがあッてもすぐに感じる。之を鈍くするのが衞生の法である。身體も鍛へかたによッて容易に感じ無くなる、風邪も引かなくなる。



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあらず候答解に遲速あるは答載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　神田の一女

問　平常入浴の事につき一、湯の溫度　二、入浴の時間　三、肌を淸潔に致すべき材料及び其方法　四、普通は幾日目位に沐浴致せば宜敷候哉右の點御敎示被下度願上まいらせ候かしく

答解者　醫學士　米山彦郎

答　醫學上入浴の目的は啻に身體の表面を淸潔にするに止まらず或は精神を鼓舞する爲め。或は身體を

冷却せしむる爲め（發熱の時）。或は發汗せしめむ爲め或は皮膚に薬品を作用せしむる爲め。或は全身に静かに電氣を應用せむ爲めなど種々にこれあり候。從ひて其目的の異なるにつれ湯、水、蒸氣、熱氣、薬品、電氣など種々の材料用ゐられ其用法も夫々差異有之候が茲に御質問には平常入浴との仰に候へば普道の清淨法の事につき一言申上けむと存候。

普通清淨浴には熱湯の全身浴を用ゐ候浴槽は横臥し得べき長き船躰のもの適當に有之其中にて浴者は半臥の位置を取り湯は頭まで達せば充分に候。之れに通常一石五六斗の湯を要し候。

此全量中に曹達二百匁位投すれば皮膚の垢を去るに便利に候。頭髪を洗ふには流動加里石鹼適當に候。

湯の溫度は通常躰溫に近き攝氏にて卅八度華氏にて百倍位を適度といたし候へ共日本人は普道之れより五六度高き程度を好む樣に候（勿論健康躰にて）。

○○○入浴時間は各人の躰質溫度の高低にて長短有之候へ共五分より十分を限りとし餘り長きは害ありて益なく候又小供は大人の半分位が適當と思召さるべく候浴を取りたる時は感冒しやすき恐あれば寒冷の時は暖爐にて適宜に浴室を暖め隙間より入る風を防せがるべし。

入浴後は必らず全身を拭ひ全く水分なき樣に注意せらるべし。入浴は空腹時、食後、飲酒後、過劇の運動後はよろしからず候。

○○入浴回數は一日一回を程とし之より多きは害ありて益なきことに候。

質問者　上毛一會員

問　一筆申上候私は身躰は余りに瘠た方ではありませんが顔が大變瘠せて頰がコケて居るのですが、よく福ツくり肥りたう御座いますもし何かよい方法でもありませんか御教示を待ッて居ります
あら〳〵かしく

答　鍛冶屋の腕、飛脚の脚は他の躰の部分より著しく太く力强よきにても知らるゝ如く人の身躰の餘分に用ゐらるゝ部分は他の部分よりは餘分の營養分を

攝取し發達するものに有之候へども顔だけ丸々と肥えしめむとの明案は一寸困難かと存候。やはり身躰一般の營養をよくし筋肉と共に脂肪の豐富となる樣心掛けらるゝより道なき事と存候。

肥滿の事につきては先頃既に百五十五號の質疑欄内に一寸申上置き候通り肥滿すると否とは其人の天性の素質にもよる事なれども只々多量の滋養分即ち魚類肉類に兼ねて適當の脂肪及び野菜類を食くする時は生活機能に消耗せられし躰成分を償ふに足る滋養分より餘分のものは脂肪となりて殘こり勢ひ肥滿致たすべく候。此理より過度の運動、又は頻繁の入浴は身躰新陳代謝の作用を高め脂肪となるべき養分迄も分解せられ脂肪沈着を妨け申候其外精神を過度に勞する事は食物消化作用及吸收作用を妨け又薄着の爲めに躰温を失ふ事多き時は之を償ふ爲めに躰成分の燃燒して躰温となる事多き故是等は肥滿せむとするには不都合に御座候左れば本等諸點を注意せられ可成滋養分（肉牛乳卵などに限きらず）を取られ過劇の運動は避けられ睡眠時間は長くせられ精神も過勞せられず可成重着せらるゝ等御注意被遊候はゞ自然肥滿せられ從ひて顔面の脂肪も增し御望みの福々しき御顔ともなるべく候

質問者　長崎　河原　みき

問　私し近親のもの本年三十一歳の男子明治十三年冬の頃溺水せし後感冒に罹り遂には喘息と變し毎年少なくとも六回多て十五回同病發す其の都度種々手を盡し名醫を招き治療を施せども一時的の平癒て根治致さず本年は本月まで三十五回同病の爲め臥床す臥床の期間二日あり五日罹るあり七日あり此の間今にも呼吸絶えんとする模樣あり本人も亦絶息すると云ふく強て注射を請ふ注射の量は常人の倍を用ゐ斯くの如き難性の患者には如何なる處置を盡せば宜敷候や此の憐むべき患者を救ふ術は醫學上一日も忽せにすべからざるものと思考し私しは該病の專門醫に研究し貰ひ居も未だ妙術あるを聞ず　希くは該病に用ゆる新藥あらば其

の名併せて根治の方法も有之候へば御教示を嘆願す

追而注射藥は、コカイン。モリヒネ、何れも常人の倍を用ゆ本年は二十五回注射す毎年三回又は七回平均注射藥代年々三十圓以上五十圓を要しつゝあり

答　既に本誌第百五十四號看護法欄内にて莫爾比涅注射につき御注意申置き候通り喘息の如き慢性病に姑息療法として一時凌ぎに注射いたす事は其度毎に益々患者をして莫爾に馴れしめ遂には恐るべき中毒症に陷らしむる事往々有之候へば注射は甚だ望ましからす候。治法御照會に先たち便宜の爲め一寸喘息の事御參考迄に御話し申上候。

元來喘息は慢性の症疾に有之平時は殆むと健康者と異らざるも發作時には俄然呼吸困難を起こし特に呼氣困るしく恰も溺死の狀態に陷るを特性と致たし候喘息の後には往々肺氣腫とて肺の氣胞は過度の擴張の狀態に陷り候併し再び舊躰に復くし可申候へ共后には漸く持久性となり可申候へば可成早く治癒致す事肝要に御座候。

而して喘息には純性のものと他の病氣例へば氣管支加答兒、腎臟病、心臟病、慢性胃病、其外非常に精神を興奮したる時などに發作を起こすものも大躰二種有之候。

純性の喘息にも原因種々有之候へ共要するに其人の素質か一定の刺戟に對し他人と異なる反應を現はすに源因致し候。例之ば氣候が刺戟となりて此發作を起こす事有之候特に氣溫の變換しやすき春秋の季節は注意すべきものに候。又一定の臭氣例之乾草、花の香氣等の吸入。又一定の食料飲料刺戟により起り其外鼻腔内に加答兒又は腫物ある時又は咽頭の加答兒等より反射的に來る事有之候。

斯の如く種々の誘因有之候へば宜しく良醫につき源因となるべき胃病心臟病などなきかを確かめ。又鼻咽頭腔の撿査を乞ひ。氣溫の變換に注意し。刺戟性の食物飲料（其人によりて異なる）を避け。自家の經驗上發作を起こすと思惟する臭氣香氣を遠ざくるなど兎に角其源因となるべきものを確かめ之れを去

らず候ては到底根治の望み難さは自然の理に候。發作時には可成新鮮の空氣吸入せらるゝ樣注意し、衣服を緩るくし、熱き飲料を供し、手足には執き局所浴を施こし、クロロホルムの蒸氣又は日本紙を硝酸加里の濃厚溶液中に浸たし一旦乾燥したるものを燃燒し其煙烟を吸入せらるゝか、又は印度大麻を含くめる卷烟草を喫するか、又は安知必林一〇を頓服し發作の去るを待たるべく候猥りに莫比の注射をなさるゝ事は恐くよろしからず候。其外新藥にてはノイマチエル氏の喘息散發作時に稍用せられ候えは成丈け狹き室に於て其一茶匙を皿又は鐵板の上に置き之に點火し其煙を口腔及鼻腔より吸入するものにて初めは一日二三回次には一回位にてよろしく候、其他ヨチピンと申す新藥を一日二回一茶匙つゝ内服するも良効あるとの事に候が俗人にては左の處方は持續致し候ても危險なく又效能も確かに候。

沃度加里　一、〇
臭素加里　二、〇
苦味丁幾　二、〇
單舍利別　八、〇
蒸餾水　一〇〇、〇
右混和一日三回食後二時間分服

氣候に關係して起こるものなどは氣溫の變動少なき海濱に轉地せらるゝ事必要に候何れに致せ良醫の熟診を受けし上にて相談せらるべし。

質問者　讃岐一會員

問　本年九歳の女子四年以前より慢性トラホームに罹り其當時高松市なる眼科專門醫にかゝり居り候得共全治せず其後硝酸銀液や硫酸銅液位にて素人にてもなし得るとのみ都會へ出養生するには一家の都合あり殊に學齡中にもあり止むを得ず時々硼酸水にて洗ひ居候（冷奄）何とか素人にてもなし得る安全なる療法且つ藥液等を御敎示被下度候

答　トラホームの頑固なるものに向かいては適當の手術を施こさゝれば到底捗々しからず候へ共專門家か硝酸銀硫酸銅の溶液のみを用ゐ候とて彼是非難を試みらるゝは頗る妥當にあらざるかと存じ候元來醫

者は通常人の知らざる新劑のみを用ゐ候とて良醫大家とは申難く反て普通の藥品を以て其肺質病狀に鑑み適當の處方を與ゑるこそ眞の名醫と可申候實に同一の藥品にても用ゐる時期と分量とによりて其作用は千種萬別とも相成可申候之れ病を癒するには良醫を要し素人治療の危險なる所以に候實にトラホームにても硫酸銅は顆粒多き初期に硝酸銀は分泌多き時に稱用せられ候以上の理由故俗人の考へにて點眼せらるゝは危險に存せられ候。

御質問によれば隨分慢性の樣に被存候へは專門醫につきて硝酸銀桿の腐蝕か又はクライニング氏の摩擦法と申す比較的簡單にしてしかも有効なる手術等受けらるゝ事適當と存候。最近の療法にてはイトロールと申す散藥を一日一回つゝ新たらしき毛をほかしたる筆に含くませ少々眼瞼結膜の上に吹き入れ同時に氷罨法を施こせば良効あるとの事に候が之れも素人療治にては危險に候。

質問者　北海道　一會員

問　貴雜誌第百五十五號に（そばかす）の治法中流動石炭酸と申事有之候へども該品は純粹の物に御座候や又竹中先生の寄書中に杏林以外と申事有之候此杏林とは如何なる儀に候哉御敎示願上候

答　流動石炭酸は無色又は少しく赤色を帶ぺる結晶石炭酸十分に水一分を混したるものにて別段無純のものに御座なく候。

杏林とは醫者社會と申す事にて此熟語は昔支那にて或醫師人の病を癒やせしに其人謝禮として杏の樹を栽そしに追々生長して遂に林となりしとの古事より來りし者に候。

質問者　周防　贊成員　福光高之進

問　胃部按摩、胃部冷水浴の二法御說明被下度奉願候

答　胃部の灌漑法には特別の裝置を要し完全の病院にあらざれば行ひ難く候へ共普通なれは只手拭を冷水に浸たしよく搾りたるものにて胃部を二三分間擦摩し後乾ける西洋手拭にて少しく赤くなる程拭ひ直

ちにフランネルの腹巻をなし冷へさる様注意せらるべし之れは朝餉前に行はるべく候。

腹部按摩法は胃腹の蠕道機を助け筋力の力を増さしむる法にして之れにも種々復雜の仕方有之候へ共委しき點は一々御說明は出來難く候が只横臥の位置にて膝を屈し高くし可成腹部の緊張を去り頭部は少しく高くしおきかくて平手を胃部に靜かに上せ左側より右側に向かい除々と波狀に動かさるべし、之れは食後二三時間にて靜かに試みらるゝを宜しとす。

中外彙報

●御斷り　御質問は續々寄集致し居り●芝の一會員●北海之伊藤氏●埼玉の會員某●八王子會員●廣島一會員●茨城一會員●新潟市一會員●安藝一會員●台灣新入會員の一人●伊勢の一會員●伊勢度會郡四郷村拜讀者●大阪藥女●越後一婦人等への解答は今回に登載し切り不申多謝々々

萬國細菌學大會

此程伯林市に於ける普魯西國會議事堂内に於て開かれたる萬國細菌學大會には各國より代表して出席したる數は約百名にして其大會にて報告したる中佛國のシャルメット博士は同國に於ける肺病私宅療法の事を報告して大に喝采を博し白國のブラッセルのヴァン、リン博士は肺病患者を公告するの方法に關し紐育市は短日月の間に約三割の減少を見しと說きたるも議論多くして到底採用し難きものと評定し又コッホ博士が公表したる「牛族の肺患は人體に傳染せず」との有名なる論斷は該大會中に於ても一題目となりしも氏は自說を固く主張して止まざりしといふ尚次回は佛國巴里市に於て開會すべしといふ

●英國精神病者の增加　英國統計局の調査によれば英蘭及ウェールスに於ける精神病患者は昨年一月の現在數より二千七百九十六人多く其數十一万七百十三人ありといふ其增加せし内にて多くは貧民に屬するものなりといふ患者と職業とにより之を分てば八百屋鳥屋其他行商人に尤も多く男女によりて大

別すれば男子は千人につき三十九人九分女子は同じく三十六人九分にして其最も大原因は飲酒にして全數の二割三分一厘に當り此外女子にありては遺傳によるもの多く其數二割四分九厘を占め家庭の不和に原因するもの男子にありては三分九厘女子にありては八分四厘事業の失敗不幸心配過勞に原因するもの男子にありては一割二分三厘女子にありては九分八厘なり愛情に關しては男子は僅かに千分の六にして女子は其三倍以上即ち千分の十九にて比較的女子の腦髓を攪亂すること多しといふ

●栃木縣渡良瀬川沿岸地と十二支腸蟲　同沿岸地方小學校生徒百名の生徒の糞便を責任ある專門家の撿査したるに百名中九十名までは十二支腸虫の卵を發見せりと之れ多く水害後にある者の如く水害一と度至たるや糞便の同子卵は四方に散亂し野菜類に附着するより次第に蔓延するに至れるなりといふ婦人救濟會の救濟し和田劒之助と云へる人の擔當治療しつゝある患者も十中の八分は腸胃病なりといふ

●横濱ペストの終熄　横濱にペスト發生に就ては一時人の耳目を聳動せしが當局其處置宜しきを疫病原地建物燒拂と共にいよ〳〵終滅に歸し汽車汽船々舶の撿疫も先月限り撤止され交通遮斷も又解除せらるゝに至りたり

●全國醫師藥劑師の總數

醫師總數　三万二千二百九十人

醫學士別科卒業	千二百七十九人
醫學專門學校及高等學校	二千百〇五人
府縣立專門學校卒業	二千二百十八人
內務省試驗及第者	六千八百八十人
內務省舊試驗及第者	二千三百〇三人
外國學校卒業	五十人
奉職履歷	九百廿五人
從來免狀	一万四千四百七人
限地開業	三百九十七人
內子第	二千七百二十八人

藥劑師總數　二千五百十五人

大學	百〇九人
高等學校及專門學校	百四十二人
內務省試驗及第者	五百四十三人
仝　舊試驗及第者	千七百十人

外國學校卒業　十一人

因に記す醫師の舊帳簿には四万九百余名とありしが今回の調査によりて約八千餘名を減じ藥劑師の帳簿も同じく三千三百六十二人なりしに是れも亦八百四十七名を減ぜり又醫師の中には齒科醫百三十二名を含み居れりといふ

●學位授與　内田守一（德島）長與稱吉（東京府）の兩氏は曩きに論文を提出して學位を請求し居られしが愈々醫學博士の學位を授領せられたり

●折詰と繪皿の全廢說　料理法に熱心家として聞えある赤堀氏は其道に精通せるは勿論なるが又大に衞生眼を備へ陋習を固守せずして奇拔の言をなす折詰繪皿の全廢說は同感の人多かるべし今其說を紹介せんに

前略　日本料理に關しては色々改良しなければならぬ箇所がありますが其中でも尤も急に改良しなければならぬのは折詰の全廢と皿の改良です、折詰の事は御維新後の習慣と云つても宜しいのですが人を招待する時は御馳走後に多少の御土產を殘肴と共に一處の折詰にして持たしてやらなければならぬ樣に主人公は思ひ又た客の方でも赤い顏でヒヨロ〳〵しながらも其折詰をブラ〳〵提げて歸らなければ馳走でなかつた樣な極下劣な考えを持つ樣になりました食物は寒暑共變り易いものですから其折詰を明日になつて食つて身體を害し甚だしきは生命を捨てる者も少なくないのです現に四五年前の瓦斯株式會社の宴會で朝野の貴顯紳士を招待して其翌日は二百人からの中毒騷ぎが起つた事がありますそれに從來我國の皿は內外兩面とも非常に込み入つた繪や色の摸樣が付いて居りまして中々眞の木地は見えません尤も摸樣が價値の有る處で御座いますから決して惡いと云ふのでは無いのですが從來の皿の樣に內外共コテ〳〵して居つてはいくら拭いても拭いても塵が取れたのだか取れませんのだか一向に分りません從つて忙がしい時抔には少しも塵が取れない事も有るかも知れません之が爲め色々の黴菌抔が自然食物の中に

混しらないとも限らんのてす外面はどんな繪模樣を付けても構ひませんからせめて內面だけは白くした儘て置いて貰いたいのてす

●日出日入時間の變更　是迄帝國大學にて編纂する曆面記載の日の出日の入時刻は太陽中心の地平線上に見ゆる時を以てしたりしが明治三十六年曆よりは太陽面最上點の地平線に見ゆる時刻を以て日出入時刻と改めらるゝ旨文部省告示を以て定められたり

●牛乳の歌　大坂私立衞生會通俗衞生談叢欄に岩田青灣氏は乳兒と人工養育につき縷述され終りに左の如き牛乳の歌を面白ろく物せられたり

牛のお乳にちご育つ、　人工養育なるものは、
母のなさけのちゝ枯れて　代りに雇ふうばもなく
妻は病ひに兒は飢へに、　泣きし比叡の山おろし
觀音堂の夢の跡　今や我身に忍ぶとき、
賴むいのちや　牛の乳

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

牛のお乳にちご育つ　人はみわけとうすめ方、
其兒の乳を飮むがさと　つかひかたとを辨へて
たとひの角のつかのまも　心つくして母刀自の
乳の如くに與へなば　阿爺の惠みにまさるとも
おとりはせじな　牛の乳

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

牛のお乳にちご育つ　人は牧場のありさまな
思ひ浮べてみどり兒の　糧の重荷の玉の緒を
つなぐ牝牛の　おこかれて
小牛を思ふそのさまは　人の情けに異ならず
ものゝ憐の奧ぞ知れ　あだにはなせぞ牛の乳

●赤痢豫防策　新潟縣は其面積も廣く人口も多ければ赤痢の發生も亦從つて多き割合なるが兎に角年々多數の赤痢病者を出だすは事實なるが其豫防策の慣行として先づ赤痢患者の發生したるときは町村又は衞生組合に命し其部落に必らず煮沸水を使用せしめ生水を一切嚴禁することゝなし同縣岩船郡關谷村に於ける實施極めて好結果なりしといふ而して其煮沸水使用を實行する場合には先づ其區域內の人民就中婦女子を一定の場所に集め懇ろに使用の目的及其方法を說示したりといふ其要領は左の如しと

一煮沸水は飮食料、含嗽料、食物及び飮食器具

の洗滌料、顔洗ひ及び手足の洗滌料等總て使途に立て生水は一切使用するを許さず

二煮沸水の容器は凡て覆蓋を設け柄杓の柄は水中に浸入せざる樣注意すべし

三柄杓は昆虫塵芥の附着せざる樣注意し覆蓋ある容器に入るゝか又は布片を用ゐて之を覆ふべし

四各戶必らず一室に蚊張を張り火氣を與へずして用ゐる食料品庖厨用の器具、飮食器具一切を入れ昆蟲塵芥の附着を防止すべし

五飮食するときは必らず蚊張内にたてすべし

右の如く實行したる區域は戶數五十九人口二百六十二馬十一頭牛三頭にして一日に消費すべき煮沸水は二十七石六斗尚ほ外に入浴用をも供給するが故に之に要する釜は平均三斗五升入七個を備へ一個各十三四回を煮沸するものにて之を午前と午後の二回に配布せりといふ之に要する人夫薪等を計算するに一人に付一日金一錢七厘二毛に當る割合なりしといへり

●中毒數件　山形縣東田川郡藤島村なる數馬某は一家五人にて晝餉の際川蟹の汁を食せしに何れも中毒症を起し主人は尤も劇症にして遂に死亡し他は漸次快復に向へりと●又山口縣都濃郡鹿野村なる中西とみ及同ハルと云へる人は方言「松シメジ」と稱する茸を煮て食したるに何れも中毒症を起し兩人とも死亡せりと●又東京府下北多摩郡小金井村なる荒畑某は夕飯の際支那胡麻即ちマンダラゲシ俗に狂ひ茄子を菜に混じ胡麻汚しとなして家内六人にて食したるに荒畑某は人事不省となり妻は發狂の氣味となり他は四肢及舌とも自由ならず目下治療中なりと

●虎列剌患者の減少　去月二十日其筋の調査によれば現在患者全國百十二名、內沖繩廣島の二十四人、福岡の十九人、大阪の十一人を最多とす本年初發よりの累計は患者一萬四千〇三十八人、死者九千五百七十五人

●腸窒扶斯患者數　同病患者の數は本年は例年より餘程多數に上り居る由なるが昨年との比較數は、

(三十四年、市八六六六、郡三七三、合計一、二三九)(三十五年、市八一六六、郡三四四「因に本年は十月末の調査なり」)假りに平均一日三名の發生とするも本年末には合計一、三四〇人となる割合なりといふ

●惡性感冒の流行　本年は雨量殊に多く氣候順を失ひ屢々出水の個所も多かりし程にて其筋にても深く警戒せられしかばコレラ、ペスト、を初め今や終熄に歸したるが此程に至り惡性の感冒非常に流行し之に感ずるものは數週日に跨り鼻カタルより咽喉カタルと變じ終には肺炎となるの虞れありされば少しく邪氣の氣味ありと思はゞ布片にて咽喉を巻き冷やさぬ樣にせらるべし尚此氣候不順等の爲め種々の餘病を牽き起し胃病などにて苦しむもの甚はた多しといへり

●日本赤十字社の總會及祝典

日本赤十字社にては十月二十一日仝社第十一回總會並びに創立二十五年紀祝典を上野公園内元四軒寺跡地に於て擧行し　皇后陛下行啓あり參會の社員凡そ八万人にして尚皇族各大臣外公使等の參會あり頗る盛會なりしが當日式場には　皇后陛下臨御あらせられ總裁彰仁親王仝妃殿下の御功勞を嘉賞在らせられ紀念として御紋附銀花瓶壹對仝妃殿下へも同樣御沙汰書と共に料紙硯箱壹組賜はり尚佐野社長以下副社長理事等にも創立以來繼續社業に盡したる功勞を夫々嘉賞あらせられ且當日の總會に優渥なる令旨を賜はり總裁殿下の御答辭・兩陛下への奉謝表　社長より總裁殿下への奉謝狀を上り是等の式終り社長の祝詞あり赤十字社の本體經歷を知悉したれば次號を待ちて掲載せん

訃音　日本赤十社長正二位勳一等伯爵佐野常民氏は豫て病氣の處去七日午後五時三十分薨去せられたり氏は赤十字社創立以來社長の任を帶ばれ十日一日の如く勵精せられしかば仝社は殊に其功績に對し社費を以て本月十二日を以て葬儀を營まれたり

大日本婦人衛生會記事



●本會十二月例會

十二月六日第一土曜日午後一時より麹町虎の門内東京女學館講堂に於て本年の納會を開く當日午後一時

總裁　小松若宮妃殿下御臨場在らせられ役員一同玄關にて奉迎濱尾副會長の御先導にて階上設けの席へ成らせられやがて鍋島會長にも御參會あり尙ほ役員出席者は(出席順)評議員髙橋幸子、幹事三浦敎子、幹事鳩山春子、幹事高木かう子、仝岡田德子、評議員山本多穗子、幹事穗積歌子、評議員石川さだ子、仝緒方悅子、仝宮下咲子、中濱よし子等にて仁禮前會長にも久々にて出席せられ開會時間一時を報ずると同時に三宅醫學博士の講演あり續きて呉博士には精神病者と社會との關係を縷述せられ休憩後熊本癩病院設立者リッデル女史には癩病者の救護と云へる題下に女史が我國渡航以來八年間癩病者救護に從事せる實歷談をなし本田增次郎氏之を通譯して大に會衆の感動を博し右終りて午后四時閉會せしが總裁殿下には初めより終りに至る迄長時間御聽講遊ばされたり御熱心のほどまことに感佩の至りに堪へざるなり

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

●宇都宮支會通信

講師　醫學得業士　渡孚貞氏報

一、九月貳拾參日午後一時より旭町旭館に於て九月度例會を開く出席會員四拾名左の講演ありて四時閉會す

一、產褥時ノ注意　講師　吉永米九郎君
一、創傷ノ救急處置　客員　山門虎雄君
一、腦膜炎ノ豫防法　講師　中里福次郎君
一、茶ノ話　客員　渡邊掌成君
一、水ノ化學的試驗　客員　匂坂良吉君

別に當日は顯微鏡數臺を陳列し結核、コレラ、丹毒、

破傷風、等の黴菌を供覧し山口客員、渡講師一々綿密なる説明を與へらる尙階上には市内有名の佐野久呉服店、上田屋洋物店より目下最流行の呉服、洋物數千品を陳列して會員休憩中の余興に供したり

一、拾月例會は縣下風害劇甚會員中にも被害善後策に多忙のもの多かりし故に特に休會せり

一、拾月中石井會長、及び水本評議員、東京へ轉住の爲め辭任申出でらる依つて幹事一同兩子の邸に至りて慰勞、惜別の意を陳じ出發當日には役員一同停車場に見送りたり風害後の事なれば送別會等は特に遠慮す

●宇都宮支會大會景況

一、拾一月下旬當市に於て下野醫學會の爲め東京より醫學博士粟本東明君、同岡村龍彦君招聘の事を聞きしが故に同時に本會例會に兼ね會員勸誘の爲め一大演說會を催さん事を企て之れが準備の爲め拾月參拾日より數回の役員會を開き尙ほ淺田、渡兩講師上京し兩博士に臨席を乞ひて快諾を得又一方には本會事務所田中德三郎君に就き本會役員の臨席を乞ひたり不幸此月は各役員諸君か其重さなる差支と時日の切迫せるとの爲め田中君が非常の周旋盡力も濱尾副會長が好意も共に効を奏せざりしは甚だ遺憾とする所なり

拾壹月拾八日役員會の結果愈々貳拾貳日正午より師範學校樓上に於て婦人衞生大演話會開會の事に決し直ちに會員へ通知書を發し又別に市内有力家三百餘名に向け入會勸誘に兼ね同日來聽の事を申込たり、貳拾日最后の役員に於ては當日委員を左の通り選定し準備愈々整ひたり

會場掛　長野、五十嵐、矢板、稻葉、淺田、小島、久保、中里、鈴木、(赤標)

接待掛　中山、笠原、高崎、滿部、菊地、川村、吉田、水野、小畑、石田、(白標)

受附掛　福井、船田、神谷、吉永、須賀、(黄標)

特に附記すべきは鈴木幹事の盡力により師範學校々長鈴木光愛君外各職員が非常の好意を以て特に本會

の爲めに講堂其の他、來賓席、役員扣席、會員扣席等の數室を貸與せられ尙ほ小使數名を使役して會場整理に力を盡されたる事なり謹んで同校々長鈴木君其他各職員諸君の好意を深謝す

一、拾壹月貳拾貳日愈々婦人衛生演說會は開かれたり會場なる栃木縣師範學校に於いては會場掛が日來の奔走と同校の好意とにより準備中々に能く整ひ前門には交叉せる大國旗秋風に飜り右門柱には筆太く「婦人衛生演說會場」と註されたり玄關には机數脚を列ねて受附掛席となし一々來會者の姓名を記し本會規則書を一部宛呈し接待掛は之れを樓上なる講堂に案內す講堂は本日の演說席にして正面に高く演段を設け背面に塗板を掲げ講演者が說明に便にせり左方には速記者席を置き右方には數脚の椅子を並べ來賓及び講師席に當て其他の空席一面には數百脚の椅子及び腰掛を整然配列して會員及び傍聽者の席となせり尙別に校長室、應接室等を借用して來賓扣席、役員扣席等をも設けぬ。本日は幸ひにも引續く晴天にて空に片翳を止めず小春日和の暖さに遂い來會者の足も輕く定刻前より三々伍々來會の人跡を絕たず午後一時頃には會員六拾余名、招待に應じて來聽せるもの二百余名外に高等女學校、裁縫女學校、高等小學校女生徒三百余名更に同伴者を加へて殆んど六百有余の來會ありて流石に廣き講堂も殆んど立錐余地なく會場掛は後れて來る者の入場に苦心せり之れより前午後零時十分特に本會の爲め時間を早めて來宮せられたる栗本東明博士停車場に着せられたるを以て淺田、渡兩講師及び高崎、水野の兩委員之れを出迎ひ停車場前白木屋樓上に於て粗飯を饗し直ちに會場に案內せり時辰の午後二時を報ずると共に渡講師登壇して簡單に開會の辭を述べ且つ栗本博士を滿場に紹介す次いで栗本博士登壇「婦人と運動」なる演題に依り莊重の態度流麗の語調を以て續々數千言殆ど一時間に亘りて運動の必要と本邦婦人が體育的志想に於て歐米婦人に劣る數等なる事を適切なる引例に依りて說き示めされ非常なる感動を來

會者に與へられたり同博士の演說終ると共に來會者を悉とく一旦室外に出して少憩を與へ一方渡講師同博士を下野醫學會場に案內し一方には淺田、長野兩講師及び石田、水野兩委員二時四拾分來宮の岡村博士を停車場に迎ひ同一行の者と共に一同再ひ着席し淺田講師同博士を紹介し博士は「花柳病に就いて婦人衛生會員の猛省を促す」てふ演題に依り極めて平易、簡明に花柳病の恐るべき事、之れが蔓延の源因、豫防の急務なる事等を繰り返し縷陳せられ大に婦人衛生會員の猛省を促されたり、斯くて同博士の講演終るや淺田講師閉會の辭を述べ全く散會せるは午后四時なりき依つて淺田講師岡村博士に隨行して下野醫學會場に至り引續き栗本博士四時貳拾分に歸京せらるゝに就き淺田、吉永の二講師小山河村の兩委員停車場に見送り同七時貳十分岡村博士歸京に就き吉永、渡、兩講師、及び淺田、中島、水野の各委員隨行して停車場前白木屋に於て晚餐を供し停車場迄見返りをなせり。

斯くも本會演說會が未曾有の盛況を呈し圓滿に終りを告げ得たるは偏に栗本東明君、岡村龍彥君が快く臨席を諾せられし有益なる講演を賜はりたると本會副會長濱尾作子君本會事務所田中德三郎君が諸多の應援補助を與へられたると當支會各講師、各役員が熱心奔走とに依るものとす茲に特記して以上諸君に謹謝す

（以上渡講師報）

●高崎支會報告

十一月例會　十一月十六日（日曜）午後一時より例會を高崎高等小學校內に開く會場には生理及び衛生上の寫眞圖書骨骼等を陳列して會員の縱覽に供し同一時十五分より三時四十分の間に於て左記諸氏の有益なる講演あり

被服の衛生　陸軍一等軍醫　橫井忠國君
齒の衛生　齒科專門醫　財津又三郎君
十二指腸蟲病に就て　帝國生命保險會社囑托醫　大山武八郎君
おしろいの話　陸軍二等藥劑官　水谷梅次郎君
附市上販賣品十數種の檢示幷に化學的鑑別試驗實施

衣服着用法　高崎尋常高等小學校々醫　秋田聰太郎君

星野副會長は先會以來の入會者を紹介し次て會員三宅鏗子の死亡を告げ一同と共に哀悼の涙に咽び且つ吊詞贈呈の事を衆議に諮りたるに滿場一致を以て可決す依て淨書の上該遺族へ贈呈せり

午後四時散會

●茨城支會報告

十一月例會　十一月十六日第三日曜日午前九時より茨城支會は例會を好文亭に於て開きたり午前十一時迄は有志者の編物及紐結等ありて夫れより三宅農學校長のバクテリアに就て婦人の注意すべき講話ありき

午后一時よりは波多野濟生病院長の普通看護法のつゝき一、大小便の取扱方二、臨終患者に對する心得三、精神病患者の取扱方に付て懇に談ぜられ同二時よりは秋元婦人科病院長の日本婦人風俗上に於ける衛生の注意を談ぜられ孰れも有益にて午後三時閉會を告げたりといふ

吊詞

嗚呼哀哉　高崎支會通常會員三宅鏗子及び通常會員田坂綾子（廐島）には去月病の爲め死亡せられたるの報に接し本會は

謹而哀悼の意を表す



●本會入會者

○事務所申込

●新潟縣北蒲原郡松浦村大字荒川　通常會員　大沼志計子
●福井縣敦賀町松榮　通常會員　繁田よし子
●長崎縣南高來郡神代村　通常會員　母里さち子
●山梨縣北巨摩郡旭村　通常會員　米山さの子
●丹波福知山町字内記三十六番地　通常會員　土屋もと子
●十勝國帶廣町字西二條通四丁目　通常會員　大井上よねを子

●芝區高　井町三十一番地　賛成會員　伊藤とく子

○伊勢安岡やすへ子紹介

●伊勢國宇治山田町立病院内看護婦養成所　通常會員　岡井小春子

●仝　所　通常會員　長井やすへ子

○長野一會員紹介

●長野縣上水内郡日里村尋常小學校　通常會員　西澤みきの子

○幹事鳩山春子紹介

●神田區今川小路三丁目四番地　特別會員　守屋千代子

○張敬子紹介

●臺灣鐵道部官舍い ノ六號　通常會員　渡邊かつ子

○八王子田畑わか子紹介

●埼玉縣南埼玉郡八幡村字大曾根　通常會員　豊田野信子

○事務所増田氏紹介

●麻布區狸穴町四十三番地　通常會員　木戸ふて子

●高崎支會入會者

○特賛横井忠國君紹介

●高崎市若松町三十九番地　通常會員　岩佐くに子

●仝市並榎町三百五十七番地　通常會員　清水とみ子

●茨城支會入會者

○支會鈴木せき子紹介

●水戸市上市裏南町　特別會員　田口まさ子

○仝　三宅てつ子紹介

●水戸市上市本町　通常會員　水野さく子

○仝　大沼こう子紹介

●水戸市上市新屋敷　通常會員　鵜飾たけ子

●仝　市上市下金町九二八　通常會員　福田ふく子

●仝　市上市新屋敷　通常會員　江幡ふさ子

●仝　市上市新屋敷楓小路六番地　通常會員　飯村きく子

●仝　市上市奈良屋町　通常會員　田口とり子

○仝　山中とき子紹介

●水戸市上市田羽根村　通常會員　飯島とり子

○仝　鈴木せき子紹介

●水戸市上市大町　通常會員　岡部さと子

●宇都宮支會入會

○支會中村ふみ子紹介

●宇都宮市塙田町　通常會員　森ます子

○仝　匂坂きく子紹介

●仝　市塙田町　通常會員　釜井せん子

●仝　市松ヶ峯町　通常會員　小川のぶ子

○支會吉永こと子紹介

●仝　市松ヶ峯町　通常會員　瀬尾けい子

●仝　市旭町　通常會員　鈴木かめ子

○支會高崎うた子紹介

●仝　市旭町　通常會員　千田よね子

○支會福井よし子紹介

●仝　市池上町　通常會員　半田くに子
●　松ヶ崎町　通常會員　鈴樹芳子

○支會三浦たまこ紹介

●仝　市中河原町　通常會員　尾池すゑ子

○支會水野しけ子紹介

●仝　市停車場役宅　通常會員　佐藤みつよ子
●仝　上　通常會員　濱松まつ子

○支會鈴木よし子紹介

●仝　市一條町　通常會員　星　みを子

○支會石田つね子紹介

●仝　市松ヶ崎町　通常會員　長谷ちよ子

○支會事務所申込

●仝　市一條町監獄署官舍　通常會員　宇田たに子
●仝　市備田町　通常會員　飯塚せい子
●仝　市泉町　通常會員　鈴木松江子
●仝　市旭町　通常會員　須賀たに子

○久保猪之吉君紹介

●府下豐多摩郡西大久保村四四八　特別會員　中島榮子
●本郷區駒込曙町十六番地　特別會員　堀　ぎん子

●會員種類變更

○麹町　普通常會員●●●●特別會員　岡野いく子



轉居

▲會員諸君御轉居の際は可成新轉居所御記入事務所宛御一報相願候

府下南葛飾郡吾嬬大字請地千三百番地へ　川添香代子
麹町區四丁目八番地へ　今村富子
下谷府茅町二丁目廿一番地へ　棟方もゝよ子
秋田縣仙北郡米吉村巡査駐在所へ　伊藤てつ子
北海道札幌區北一條四四丁目二番地北辰病院内へ　川原田きさ子
府下北豐島郡岩淵町字袋九九二へ　深井てる子
芝區新櫻田町十番地へ　堀口ひな子
赤坂區青山町一丁目五十五番地へ　上泉久子
麻布區富村町四十二番地へ　和田松子
長野縣下水内郡芹田村へ　中島とく子
福島縣福島北町三十三番地へ　河村孝子
麻布區飯倉狸穴町四河村伯方へ　落合あや子
大坂市中ノ島玉江村一丁目十二番地へ　安永きく子
本所區龜澤町二丁目十二番地へ　中島てる子
宇都宮市大寛町二百十番地へ　高橋鏡子
本郷區駒込四片町十番地トノ六號へ　平林たみ子
千葉縣銚子町ロノ百四十六番地へ　松前藤子
廣島縣呉市一四四五へ　加藤養子
長野縣長野市花咲町廿三番地へ　加藤雛子
福岡市土手町三地番へ　松田貞佐子
香川縣大川郡富羽村九十戸へ　小川榮子
名古屋市東片端町二丁目五番地へ　三宅鶴子
麹町區紀尾井町三番地へ　吉野伸子
府下南葛飾郡大島町大島尋常高等小學校内へ　曽田りう子
山口縣豐浦郡長府大村字河端三一三四　松本貞尾子
芝區金杉濱町七十一番地へ　村上しづ子

第二卷第十一號發兌

をんな

總裁 小松大宮妃殿下
副總裁 鍋島侯爵令夫人

毎月一回十五日發行
定價金拾五錢
全國無遞送料

《卷首筆蹟》本會賛成員三井五十子筆「新選女百人一首歌かるた」《論說》女子美術學校新築落成式祝辭、松方伯爵、佐藤醫學博士、清浦男爵●三輪田女學校開校式祝辭、成瀬仁藏●嶋山春子●婦人讀書會開會の辭、婦人の集會に就て、山澤俊夫《學藝》和書解題（今鏡●増鏡）芳賀文學士●漢書解題（北齋書●周書其他六書）丸井文學士●作文批評、今泉定介●作歌批評、大口鯛二●日本名媛批評（檀林皇后）下田歌子●數理に關する地理の話日野清●秋の木の葉、服部理學士●兒童の言語（六）梅澤和軒●音樂の話（二）森しづか《修身》歐洲女德變遷史（二）本田增次郎《齊家》點茶、松浦伯爵●割烹、石井泰次郎●家計最日の御台、吳文聰●家計收支の實況《世務》法制談（犯罪及び刑罰）岡戸法學士●各地產業の實況（二十六）「甲斐絹」無海山人《詞藻》十一月五日宮中御歌會兼題詠進●みやび會員詞藻《雜錄》刺繡（承前）木村仲子●絣の話中村綠水●婦人論梗概《彙報》內外要報十數件

發行所 東京麹町區下二番町三七 大日本女學會

大賣捌
神田表神保町三 東京堂
神田一橋通町七 有斐閣
京橋銀座四の一 東海堂
京橋鎗屋町六一三 北隆館

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓　特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢　支會員甲毎月金拾錢乙仝金九錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す　各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を適用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す　役員の任期は一ケ年とす●第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし　本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ケ月又は一ケ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條　毎月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費トシテ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二ケ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ナル者ヲ支會會費トシテ一ケ月金五錢ノ掛ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク宗族又ハ組合ノ婦人ヲ誘引シ臨聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精々質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用ヰルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ずや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隨して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努めんとするに在る而已●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を常水戸市に置く●第三條 本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし●第五條 會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるを●第六條 男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし●第七條 本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。死亡等は親戚知人より通知せらるへし●第九條 本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條 役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條 本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を常理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに依托する事あるへし)●第十二條 集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會は八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開き評議する事あるへし●第十三條 毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但し會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條 講話演說等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若しくは會員の縁故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絶することあるへし●第十五條 毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條 會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條 本支會々費の收入金は其一部を便宜に本部へ回送するものとす●第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條 會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條 茲に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條 本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるへし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるへし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外の物品金員等の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間を[illegible]實に服行すべし●第十八條 特に此規則に掲けざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

女藝

第二卷　第一號

毎月一回二十五日發行

一部金拾貳錢　郵税金壹錢　半年分郵税共七拾六錢　一年分壹圓五拾錢　郵劵代用一割増

『女藝學會』は女子淑德の美を發揚し浮華輕佻の風を矯め女生に關する手藝の進歩發達を計るに在り

『女藝』は本會の機關雜誌にして女子の手藝を主とし兼ては文部省教員檢定試驗に應ぜんとするもの及び廣義に所謂文學美術の研究を爲さんとするものに師友たらん事を期するにあり（會員は何人も入會隨意會費毎月金拾錢無料を以て女藝を會員に頒つ）

『女藝』には美的觀念及び綺講思想を養成せんが爲め毎號懸賞色彩畫を添ふ

第二卷第一號要目　（十一月廿五日發行）

●家政學講義（後閑菊野）●作法（佐方鎭子）●書法（川口東州）●點茶の話（ふじ子）●料理法●園藝（奥村繁次郎）●造花（金子文江子）●刺繡實習（鶴田直子）●うづみ火（小杉榲邨）●薙刀體操談（小澤卯之助）●其他文藝●雜錄●才媛倶樂部●彙報等

發行所
東京牛込區東五軒町五十四番地
女藝學會

私立大日本婦人衞生會徽章規程

第一條　大日本婦人衞生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止簪用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●通常會員章

第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢

第二號　正銀製五拾錢、送費六錢



●終身及特別會員章

第一號　壹圓、送費九錢

●入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりも御納付相成候へば雑誌發行次第直ちに郵送可致候なり●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

明治二十六年四月五日第三種郵便物認可
明治卅五年十二月十五日印刷及發行
婦人衛生雜誌第百五拾七號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷